

生涯学習論研究（HCH01）

通年

Research on Lifelong Learning

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 21 CH
単位数	4. 0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

教育の分野の高度な専門知識・技能を育成する科目である。

生涯学習論研究では、まず 1965年に提唱され、それ以降世界中で展開されている生涯学習について、理論的系譜およびその問題点を歴史的、社会的背景を踏まえつつ、考察する。同時に、学習機会の保障という視点から日本における生涯学習政策について考察し、そのあり方をより深く探求することを目的としている。

到達目標

- 1.生涯学習理論をより体系的に理解し、深化する。
- 2.アンドラゴジー理論を体系立てて理解し、深化する。
- 3.成人学習者支援のあり方について総合的に理解し、深化する。

評価方法

2 回のレポート 70%（到達目標1, 2, 3を評価）、口頭試問 30%（到達目標1, 2, 3を評価）により成績を評価し、総合点60点以上で合格とする。

注意事項

- 1.レポート作成においては、様々な文献に当たること。
- 2.レポートは作成上の基本的ルールを守り、特に引用した部分は明示しておくこと。
- 3.レポートの提出期限を厳守すること。

授業計画

（レポート課題の学習方法）

課題I 生涯学習理論およびその変遷について論述しなさい。

ラングランにより提唱された生涯教育論は時代とともにその比重を移してきた。その背景を踏まえながら、ユネスコを中心とした生涯教育論を教科書及び資料 (1)(2)(3)(4)(5)(9)等を参考にして、レポート（4,000字以上）にまとめること。

課題II 日本における生涯学習政策及びその功罪を学校教育と関連付けて論述しなさい。

現在学校教育現場には様々な問題が生じているが、同時に生涯学習政策にも大きな問題があるとの指摘がある。そこで、まず生涯教育政策を(5)(6)(7)(8)等を参考に整理し、その政策が抱えている問題点を明確にするとともに、その政策が学校教育にどのような影響を及ぼしてきたかについて、レポート（4,000字以上）にまとめること。

<参考文献>

- (1) P.ラングラン、波多野訳『改定版生涯教育入門』全日本社会教育連合会
- (2) International Commission on the Development of Education, Learning to Be, UNESCO, 1972（『未来の学習』第一法規、1975）
- (3) E.ジェルピ、前平訳『生涯教育 -抑制の解放と弁証法-』東京創元社、1983
- (4) 西村正子著『生涯学習の創造 -アンドラゴジー-の視点から-』カニシヤ出版、2000
- (5) 市川昭午『生涯教育の理論と構造』教育開発研究社、1981
- (6) 市川昭午『臨教審以後の教育政策』教育開発研究社、1995
- (7) 佐藤三郎『生涯学習時代の学校教育』東信堂、1993
- (8) 『eラーニングが創る近未来教育』オーム社、2003
- (9) 佐々木正治編著『21世紀の生涯学習』福村出版、2000
- (10) 佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版、2007
- (11) 小林文人他『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013

(12)佐藤晴雄他『生涯学習と学習社会の創造』学文社、2013

※入手困難な文献については相談に応じます。

授業外学習

- ・提示している基礎・基本文献を積極的に読むこと。
- ・自学自習が基本であることを充分認識して、計画的に勉学に取り組むこと。

教科書

『生涯学習社会の構築』|佐々木正治編著|福村出版|978-4-571-10138-0

参考書

- ・渡邊洋子『生涯学習時代の成人教育学』明石書店 2002. ISBN-4-7503-1618-0
- ・小笠原喜康『大学生のためのレポート・論文術』（講談社現代新書）講談社.

備考

生涯学習論演習（HCH02）

通年

Seminar in Lifelong Learning

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	2. 0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

教育の分野の高度な専門知識・技能を修得する科目である。

生涯学習論演習では生涯学習における中心的学習者である成人に焦点を当て、成人の学習理論、すなわちアンドラゴジー（Andragogy）理論を資料、原典にあたりながらより深く探求することを目的としている。そしてアンドラゴジー理論に基づきながら住民の学習機会がどのように保障されているかについて、具体的事例を用いながら考察する。

到達目標

- 1.生涯学習理論をより深く体系的に理解し、説明できるようになる。
- 2.アンドラゴジー理論をより深く学び・理解する。
- 3.成人学習者支援のあり方についてより体系的に理解し、説明できるようになる。

評価方法

2つのレポートの内容 40%（到達目標1, 2を評価）及び2回のスクーリングの学習状況 60%（到達目標1, 2, 3を評価）でもって、総合的に評価する。

注意事項

- ・レポートは作成上の基本的ルールを守り、作成すること。
- ・レポート作成において引用した部分は、引用文献として明示しておくこと。
- ・レポートの提出期限を厳守すること。

授業計画

赤木 恒雄（レポート課題の学習方法）

課題I 成人の学習理論をペダゴジー (Pedagogy)理論とアンドラゴジー(Andragogy)理論との比較を通して論述しなさい。

成人の発達特性を通して、成人の学習理論が展開されるということを念頭において、レポート（2,000字以上）にまとめる。

子供と成人の違いについては資料(1)(3)(4)(9)等を、成人の学習理論については資料(2)(3)(4)(5)等を参照にされたい。

課題II アンドラゴジー理論の視点から、住民の学習機会がどのように保障されているかを具体的事例に基づいて論述しなさい。

行政、学校のレベルなどを限定し、身近にある具体的事例を取り上げ、資料 (5)(6)(7)(9)等を参照しながら、住民の学習機会の保障状況及び問題をレポート（2000字以上）にまとめること。なお、レポートには取り上げた事例の資料を添付すること。

【スクーリング時における指導内容】

提出されたレポートの内容等についての質疑応答を行うと共に、本科目に関連した最新の研究動向を紹介し、今後の研究のさらなる深化・充実をめざす。

<参考文献>

- (1) D.J.Havighurst,荘司監訳『人間の発達課題と教育』玉川大学出版部、1995.
- (2) 三浦清一郎『成人の発達と生涯学習』ぎょうせい、1982.
- (3) M.S.Knowles, The Modern Practice of Adult Education, Follett Publishing Co.1980.
(マルコム・ノールズ『成人教育の現代的実践 - アンドラゴジーからアドラゴジーへ』鳳書房、2002)
- (4) S.B.Merriam&R.S.Caffarella, Learning in Adulthood, Jossey-Bass, Inc.1999
(J.B.メリアム& R.S.カファレラ『成人期の学習 理論と実践』鳳書房 2005)
- (5) 西岡正子『生涯学習の創造』ナカニシヤ出版 2000
- (6) 日本社会教育学会編『成人の学習』東洋館、
- (7) 『生涯学習社会の教育を探る』東信堂、2004

- (8)『成人学習理論の新しい動向』福村出版、2010
- (9)小野・香川編『広がる学び開かれる大学』ミネルヴァ書房 1998
- (10)瀬沼克彰『日本型生涯学習の特徴と振興策』学文社 2001
- (11)佐々木正治編著『21世紀の生涯学習』福村出版 2000
- (12)佐々木正治編著『生涯学習社会の構築』福村出版 2007
- (13)小林文人他『日本の社会教育・生涯学習』大学教育出版、2013
- ※入手困難な文献については相談に応じます。

授業外学習

- ・提示している基礎・基本文献を事前に読み込んでおくこと。
- ・提示してある文献および関係する文献を積極的に読むこと。

教科書

授業時に適宜指示する。

参考書

渡邊洋子『生涯学習時代の成人教育学』明石書店 2002

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	4． 0 単位
担当教員	 小山悦司

授業の概要

社会の発展に果たす教育および教師の役割について考察すると共に、教育人材開発のための理論と方法を探究することを目的としている。具体的には、まず教師や教育指導者に求められる力量の内実を、技術的側面と人格的側面から明らかにする。そして力量形成の方法や、次代の国際社会を担う人材開発（staff development）のあり方について、専門職的発達論（professional development）、成人学習理論、キャリア開発プログラム、養成・研修カリキュラムの視点から、理論面にウエイトを置いて研究する。

到達目標

- ・生涯にわたる力量形成のあり方について研究し説明できる。
- ・職能開発に関する諸理論について研究し説明できる。

評価方法

レポートの論点が題意に沿っているかどうか、結論に筆者の独創性が見られるか、などの観点から総合的に評価する。評価の比率は、レポート 70%、口頭試問 30%を基準とする。

注意事項

研究レポート作成上の基本的なルールを守り、特に引用した部分は明示しておくこと。

授業計画

課題 1：生涯にわたる力量形成のあり方について論述しなさい。

教師教育（Teacher Education）の国際的な動向として、教師の力量形成は養成・採用・研修と一貫したプロセスの中で図らなければならないことが強調されている。このことについて、理論的な系譜を整理することに焦点を置いて、教科書及び参考文献（1）の第 3部「教師教育のあるべき姿を求めて」（pp.121～159）に基づいて、4000字程度のレポートにまとめること。なお、場合によっては、教師以外の職業における力量形成のあり方について論述することも可とする。また、必ずしも全ての参考文献を入手して通読する必要はない（特に（3）と（4））。

課題 2：以下の 2問の中から、1問選択して 4000字程度で論述しなさい。

- (1)専門職的発達論（職能成長論）について論述しなさい。
- (2)教師の職能開発に関する国際的な動向について論述しなさい。

なお、(1)については教科書及び参考文献（1）の第 3章「生涯にわたる力量形成」を参考にすること。(2)については（5）が基礎的な文献であるので参照されたい。

（参考文献）

- (1) 科学教育研究会編『21世紀の教育』法律文化社 1991（残部があるので提供します）
- (2) 浅田匡他『成長する教師』金子書房 1998年
- (3) Christopher Day“Develop Teachers”FALMER PRESS 1999
- (4) Anna Craft“Continuing Professional Development”ROUTLEDGE 1996
- (5) OECD著 奥田かんな訳『教師の現職教育と職能開発』ミネルヴァ書房 2001年
- (6) 篠原清昭『学校改善マネジメント』ミネルヴァ書房 2012年

* 入手の困難な文献の利用については相談に応じます。

授業外学習

研究を進める上で、教科書・参考書以外の諸文献を検索して、レポートを作成すること。なお、メールでの質問等のやりとりを通じて研究のさらなる深化をめざす。

教科書

赤星晋作編『新教職概論』学文社 2019年 ISBN-978-4-7620-2847-2

参考書

必要に応じて適宜指示します。

備考

教育人材開発論演習（HCH04）

通年

Seminar in Human Resource Development for Education

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 小山悦司

授業の概要

社会の発展に果たす教育および教師の役割について考察すると共に、力量形成の方法をめぐって、実践面にウエイトを置いて、様々な角度から検討を加える。そして、最終的には、教育人材開発のための理論と方法についての知見を深めるために、教師論、スタッフ・ディベロップ論、専門職的発達論、成人学習理論、力量形成論などをテーマに設定して専門的・学際的に考究する。

到達目標

- 1 生涯にわたる力量形成のあり方について研究し説明できる。
- 2 職能開発に関する諸理論について研究し説明できる。

評価方法

レポートの論点が題意にそっているかどうか、結論に筆者の独創性がみられるか、などの観点から総合的に評価する。評価の比率は、レポート 50%、スクーリング 50%を基準とする。

注意事項

研究レポート作成上の基本的なルールを守り、特に引用した部分は明示しておくこと。

授業計画

【レポート課題の学習方法】

課題1：専門職に求められる力量の内実とその形成方法について論述しなさい。

課題2：力量形成の源泉とされる自己教育のあり方について論述しなさい。

教師教育(Teacher Education)の国際的な動向として、教師の力量形成は養成・採用・研修と一貫したプロセスの中で図らなければならないことが強調されている。このような動向を踏まえて、具体的な方策や実践的な事例を紹介することに焦点を置いて、教科書及び参考文献（1）の第1章「教師に求められる力量」第2章「力量形成の源泉としての自己教育」に基づいて、それぞれ2000字程度のレポートにまとめること。

【スクーリング時における指導内容】

本科目に関連した最新の研究動向を理論面を中心に紹介すると共に、レポートの内容等についての質疑応答を通じて、研究のさらなる深化・充実をめざす。

（参考文献）

(1)科学教育研究会編『21世紀の教育』法律文化社 1991年（残部があるので提供します）

(2)小島弘道他『教師の条件』学文社 2006年

(3)稲垣忠彦・寺崎昌男・松平信久編『教師のライフコース』東京大学出版会 1988年

(4)高倉翔、加藤章、谷川彰英編著『これからの教師』建邦社 2007年

(5)木岡一明編『教職員の職能発達と組織開発』教育開発研究所 2003年

* 入手の困難な文献の利用については相談に応じます。

授業外学習

研究を進める上で、教科書・参考書以外の諸文献を検索して、レポートを作成すること。なお、メールでの質問等のやりとりを通じて研究のさらなる深化をめざす。

教科書

曾余田浩史・岡東壽隆編『新・ティーチング・プロフェッション 次世代の学校教育をつくる教師を目指す人のために』明治図書 ISBN978-4-18-050377-3

参考書

必要に応じて適宜指示します。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	4．0 単位
担当教員	 唐川千秋

授業の概要

人間のこころの営みや知的活動を理解する 1つの方向は、高次精神活動である問題解決の研究であり、もう 1つは、もっとも基本的な機能である学習・認知についてである。この講義では、何かを知るという情報獲得、必要な情報を覚えるという記憶機能に焦点を当て、理論的枠組み及び近接領域からの影響により大きな転換点を迎えてつつある認知科学の今後の展開について、どのような論争の経緯があったのかを踏まえつつ理解を深めることを目的とする。

到達目標

認知科学に関する最近の諸トピックスを、理論的背景も含めて正確に理解する。

評価方法

課題レポート2編および口頭試問により評価する。評価は、レポート 80%、口頭試問 20%の重みで判定する。

注意事項

参考図書については、入手しにくいもの、高額なものもあるので、必ずしも限定しない。ただし、他の図書館等で学習する場合、大学院レベルの内容を満たすものとするので、選定にあたっては予め相談すること。

授業計画

【レポート課題】

教科書を通読した後、2章分を選択し、引用文献等にあたりながら、それぞれについて 4,000字以上のレポートを提出しすること。（合計2編のレポート）

なお、レポート作成にあたっては、

- （1）選択したテーマと日常経験との関連、
- （2）テーマが研究されるようになった背景・意義
- （3）今後の課題

の観点を踏まえて考察を加えること。

【主な参考図書】

- 1.箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（著） 2010 認知心理学 有斐閣 ISBN-13: 978-4641053748
- 2.松尾太加志（編） 2018 認知と思考の心理学 サイエンス社 ISBN-13: 978-4781914237
- 3.道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 2011 認知心理学―知のアーキテクチャを探る（新版） 有斐閣 ISBN-13: 978-4641124530
- 4.鈴木宏昭 2016 教養としての認知科学 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130121101
- 5.高野陽太郎（編） 1995 認知心理学〈2〉記憶 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151023
- 6.大津由紀雄（編） 1995 言語（認知心理学） 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151030
- 7.市川伸一（編） 1996 認知心理学〈4〉思考 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151047
- 8.日本認知科学会（編）認知科学モノグラフ 全 12巻

授業外学習

予習：教科書の該当ページを読んで概略をつかむ。

復習：引用されている文献にあたり、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

記憶研究の最前線|太田信夫・多鹿秀継|北大路書房|978-4-7628-2166-0

参考書

上記以外のものについては適宜紹介する

備考

学習心理学演習（HCH06）

通年

Seminar in Learning Psychology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	2. 0 単位
担当教員	 唐川千秋

授業の概要

学習心理学は、記憶、思考・言語等の認知過程について理論構築を行うだけでなく、これまで教授・学習、学習意欲、学習支援等の実践にも深く関わってきた。この演習では、上記を踏まえ、創造性の発現にどのように認知過程がかかわるかを扱い、より広範な視座をもつことを目的とする。

到達目標

(1) 認知科学に関する最近の諸トピックスを、理論的背景も含めて正確に理解する。

評価方法

課題レポート2編（到達目標1）およびスクーリングでの質疑応答および科目修了試験（到達目標1）により評価する。評価は、レポート 60%、スクーリングでの質疑応答および科目修了試験40%の重みで判定する。

注意事項

参考図書については、入手しにくいもの、高額なものもあるので、必ずしも限定しない。ただし、他の図書館等で学習する場合、大学院レベルの内容を満たすものとするので、選定にあたっては予め相談すること。

授業計画

【レポート課題】

- いずれか1つの章を選び、A 4 版に2,000字以上に要約してください。（受講者が多い場合には、章を割り振ることがあります。）
- 認知倫理をどのように活用・応用することで問題解決および創造的思考に役立つと考えられるか、2,000-4000字程度で論述してください。

【主な参考文献】

- 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（著）2010 認知心理学 有斐閣 ISBN-13: 978-4641053748
- 仲真紀子 2005 認知心理学の新しいかたち 誠信書房 ISBN-13: 978-4414301564
- 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋（著）2010 認知心理学 有斐閣 ISBN-13: 978-4641053748
- 松尾太加志（編）2018 認知と思考の心理学 サイエンス社 ISBN-13: 978-4781914237
- 道又爾・北崎充晃・大久保街亜・今井久登・山川恵子・黒沢学 2011 認知心理学—知のアーキテクチャを探る（新版） 有斐閣 ISBN-13: 978-4641124530
- 鈴木宏昭 2016 教養としての認知科学 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130121101
- 高野陽太郎（編）1995 認知心理学〈2〉記憶 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151023
- 大津由紀雄（編）1995 言語（認知心理学）東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151030
- 市川伸一（編）1996 認知心理学〈4〉思考 東京大学出版会 ISBN-13: 978-4130151047
- 日本認知科学会（編）認知科学モノグラフ 全 12巻

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。
また、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

引用されている文献にあたり、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

Michael W. Eysenck, & Mark T. Keane (著) Cognitive Psychology: A Student's Handbook (7th ed.(Paper ed.)) 出版社: Psychology Press 出版年: 2015/2/11

参考書

乾敏郎・吉川佐紀子・川口潤（編） よくわかる認知科学 ミネルヴァ書房 978-4-623-05534-0

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	4．0 単位
担当教員	 坂本尚史

授業の概要

持続可能な地球社会の構築に向けて、様々な方面から多様な取り組みがなされている。この講義では地球環境問題の概略を解説した後に、市場メカニズムを応用した、いわゆる経済学的手法を応用した環境対策・政策について学習する。

到達目標

環境対策・政策において市場メカニズムを応用した経済学的手法が有効であることが理解できる。

評価方法

授業計画に示した 2 つのレポートの提出を求め、レポート（ 7 5 % ）、口頭試問（ 2 5 % ）で総合的に評価する。

注意事項

レポートにおいては、課題で示された内容に答えるだけでなく、最新のニュースとの関連を含め自らの考え・見解・感想を含めること。質問事項があれば、メール等で問い合わせること。

授業計画

レポート課題 1

二酸化炭素による地球温暖化のメカニズムを説明し、その排出量削減に向けて定められた国内および国際的取り組み(例えば、国内の法律、京都議定書、パリ協定など)の内容と問題点について、4000 字以上にまとめなさい。

＜参考資料＞

- ・環境白書：環境省
- ・精神論抜きの地球温暖化対策―パリ協定とその後：有馬 純著、エネルギーフォーラム
- ・関連するWebサイト。

など

レポート課題 2

排出用取引制度など、環境問題の解決のために経済学的手法である市場メカニズムの原理を適用することの利点と問題点について、あなたの考えを4000 字以上にまとめなさい。

＜参考資料＞

- ・入門環境経済学(中公新書)・日引 聡、有村俊秀 著・中央公論新社・4-12-101648-3
- ・環境経済学入門講義・浜本光紹 書・創成社・978-4-7944-3150-9
- ・資源と環境の経済学・馬奈木 俊介 著・昭和堂・978-4-8122-1230-1

など

授業外学習

新聞やテレビ等のニュースで取り上げられている環境問題について常に興味を持ち、切り抜きをノートにまとめるなどの方法でに十分に自習しておくこと。また、新聞やテレビのニュースで取り上げられている環境問題を中心に環境問題に関してレポートをまとめること。

教科書

なし

参考書

上記以外の参考書、参考文献については相談に応じます。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	4. 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

国際取引の枠組みに関係する条約や資本市場に大きな影響のある政策について研究する。

到達目標

- 1) 国際取引の原理を理解し、説明出来る。
- 2) 世界経済・社会の現状について理解し、説明出来る。
- 3) 企業経営について理解し、説明出来る。

評価方法

レポート提出 2 本（各30%×2＝合計60%）と口頭試問（40%）により評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

次の各テーマ毎にレポートを作成すること。

（注意：各4000文字以上）

テーマ1：TPPの内容と各加盟国の事情

テーマ2：金本位制と為替の変動相場制との長所・短所

上記レポートの内容に基づく口頭試問

授業外学習

個別指導になるので、受講者が決まればその都度指導する。

読むべきテキスト等はその都度指示する。

普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

国際取引法演習（HCH11）

通年

Seminar in International Business Law

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	2. 0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

21世紀に入ってグローバル資本主義が主流になったことにより、政府の役割を大きくする国家資本主義と規制緩和を主な政策とする新自由主義との対立が激しくなった。各国の政治もこれに連れて揺れている。来るべく時代の到来について理解する。

到達目標

- 1) 国際取引の原理を理解し、説明出来る。
- 2) 世界経済・社会の現状について理解し、説明出来る。
- 3) 世界経済の現状、日本経済の現状について知り、将来展望について自説を持つことが出来るように努力する。

評価方法

2本のレポート（25%×2回）＋スクーリング2回（10%×2回）＋口頭発表1回（30%）により評価する。

注意事項

特になし。

授業計画

次の各テーマ毎にレポートを作成して口頭発表を行う。

（注意：各2000文字以上。）

- 前期テーマ：米中貿易戦争の行方
（注意点：米国と中国は互いに何が譲れないのかについて論点を絞る。）
- 前期スクーリング時における指導内容：レポートの内容等についての質疑応答を通じて、研究の内容を深める。
- 後期テーマ：環境イノベーションの進展
（注意点：日本企業の進める省エネ技術に論点を絞る。）
- 後期スクーリング時における指導内容：レポートの内容等についての質疑応答を通じて、研究の内容を深める。
- 上記のレポートに基づいて口頭発表を行う。

授業外学習

個別指導になるので、受講者が決まればその都度指導する。

読むべきテキスト等はその都度指示する。

普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	4． 0 単位
担当教員	 権純珍

授業の概要

・国際資本(国際金融)市場論について学ぶ。国際資本市場の理論及び分析手法を身につけると共に、近年の国際金融問題について考察する。

到達目標

- ・国際資本(国際金融)市場の理論体系を理解できる。
- ・金融市場の効率性についての分析能力を習得する。
- ・金融市場のグローバル化に対応できる能力を身につける。

評価方法

・授業計画に示した2つのレポートの提出を求め、評価する。また、口頭試問によって理解度を評価する。4つのレポート（70％）、口頭試問（30％）で総合的に評価する。

注意事項

- ・学習内容の十分な自学自習が必要である。
- ・課題レポートの提出期限を厳守すること。
- ・レポートの書き方や文献引用等について、掲載の参考文献(5)・(6)を参照すること。

授業計画

【授業計画】

※学習方法：掲載の参考文献等を参照し、以下の課題に取り組むこと。

○課題 1

- ・現代金融市場のグローバル化と金融リスクの対応策について論述すること(4000字以上)。

○課題 2

- ・現代金融市場のグローバル化とバーゼル規制について論述すること（4000字以上）。

<参考文献>

- (1)E.ケイプズ A.フランケル W.ジョンーンズ、伊藤隆敏監訳、田中勇人訳『国際経済学入門(I)- 国際貿易編-』日本経済新聞社、2003年4月
- (2)E.ケイプズ A.フランケル W.ジョンーンズ、伊藤隆敏監訳、田中勇人訳『国際経済学入門(II)- 国際マクロ経済学編-』日本経済新聞社、2003年4月
- (3)細野薫『金融危機のミクロ経済分析』東京大学出版会、2010年3月
- (4)野口悠紀雄・藤井眞理子『金融工学』ダイヤモンド社、2000年6月
- (5)小林康夫・船曳建夫『知の技法』東京大学出版会、1994年4月
- (6)小林康夫・船曳建夫『知の論理』東京大学出版会、1995年4月

授業外学習

・金融論、国際経済学、国際金融論,ミクロ経済学・マクロ経済学をより深く理解できるよう、関連文献を読み、自学自習すること。

教科書

- ・特に指定しない。
- ・必要に応じて資料等を配布する。

参考書

・参考書及び文献等は必要に応じて随時、指示する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 20 CH
単位数	4． 0 単位
担当教員	 枝松千尋

授業の概要

本講義は、生涯を通じて健康に生活するための知識を身につけ、科学的興味をもって理解を深化することを目的とする。特に運動を中心とした生活習慣が健康にどのように寄与するかを理解する。

到達目標

健康に関して幅広い知識を身につけ実践できる。

評価方法

2回のレポート（70%）及び口頭試問（30%）でもって総合的に評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- 1． テキストに引用された学術論文等を積極的に読み、理解を深化させること。
- 2． 特にインターネットでの情報はその信憑性を十分に吟味すること。
- 3． レポートに引用した文献は必ず明示すること。
- 4． レポート課題はメールによって指示をする。

授業計画

- 1.文明と生活習慣・肥満
- 2.生活習慣と炎症
- 3.生活習慣と腸内環境
- 4.生活習慣と睡眠
- 5.運動とストレス・健康

上記項目に関するレポート課題を前期に1つ（運動とストレス・健康について）、後期に1つ（テキスト上の任意のテーマ）を提示する。自ら調べ、指定された課題についてのレポート（4000字）を作成する。随時メールでの質疑応答を行う。

授業外学習

テキストに引用された学術論文を積極的に読むこと。

教科書

最高の体調~進化医学のアプローチで、過去最高のコンディションを実現する方法~

参考書

David A. Raichlen et al. Physical activity patterns and biomarkers of cardiovascular disease risk in hunter-gatherers. Am J Hum Biol. 29(2), 2017

Northey JM et al. Exercise interventions for cognitive function in adults older than 50: a systematic review with meta-analysis. Br J Sports Med. 52(3), 154-160, 2018

von Haaren B et al. Does a 20-week aerobic exercise training programme increase our capabilities to buffer real-life stressors? A randomized, controlled trial using ambulatory assessment. Eur J Appl Physiol. 116(2), 383-94, 2016

備考

健康運動科学実験（HCH14）

通年

Experiment of the health and exercise physiology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	21 ～ 20 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 枝松千尋

授業の概要

本講義は、健康を考える上で基礎になる「身体状況及び能力」を測定する実験機器の操作及び評価基準について学習するものである。さらに運動時の身体の反応について運動生理学・バイオメカニクスに基づく実験を行う。

到達目標

- 1 「実験機器の測定原理、操作方法、データの読み方を理解する」
- 2 「実験計画の立案、実施、評価、考察ができる」

評価方法

課題レポート（50％）、スクーリング期間中の機器操作（25％）及びディスカッション（25％）により総合的に判定する。
上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

「健康運動科学の研究」を履修していること。

授業計画

運動生理学・バイオメカニクスに関する分野の先行研究を調査し、関心のあるテーマを選ぶ。その後、スクーリングにおいて実験・解析を行う。得られたデータを図表にまとめ、最終的に考察を加えてレポート作成を行う。

授業外学習

実験に取り組むにあたり、先行研究を調査しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて提示する。

備考

生活習慣病予防の研究（HCH15）

通年

Research on lifestyle-related disease prevention

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	4．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

生活習慣病の概念、成因、発症機序、症状、治療法について理解する。さらに危険因子の関連機序を検討し、生活習慣病の発症予防、進行抑制の可能性について理解を深め、研究方法などを学ぶ。

到達目標

生活習慣病に関して幅広い知識を身につけ他者に詳しく説明できる。

評価方法

書物、文献を検索し、レポートを提出し、最後に口頭試問を行い理解の程度を判定する。

レポート 60点、口頭試問 40点とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。レポートに引用した文献は必ず明示すること。インターネットでの情報はその信憑性を十分に吟味し、安易に引用しないこと。

授業計画

- 1.生活習慣病
- 2.メタボリックシンドローム
- 3.生活習慣病の危険因子と対策
- 4.運動、食餌療法による発症抑制
- 5.健康診断基準値の適否

上記項目に関する課題を前期に1つ、後期に1つ提示するので、それに応じてレポート（4000字以上）を作成する。これらはその時々最新のトピックスに応じて変遷するので固定されたものではない。

授業外学習

生活習慣病について学術雑誌やニュースから常に最新の知見や研究動向を把握したうえで、指定された課題についての2つのレポートを作成する。随時メールでの質疑応答を行う。

教科書

特に指定しない。

参考書

必要に応じて提示する。

備考

生活習慣予防実験（HCH16）

通年

Experiment of lifestyle-related disease prevention

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	21 ～ 19 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

生活習慣病予防には多岐にわたるアプローチが存在する。それぞれのアプローチにおける考え方、研究手法を知り、いかなる知見が得られているかを検討する。さらに生活習慣病の成因、発症機序を理解したうえで、理論に基づく効果的予防法を考案し、自らその方法を実践し、その過程、効果を検証する。

到達目標

生活習慣病の予防に関して広範な知識を身につけ他者に説明できる。

評価方法

レポートが課題に沿っているか、独創性がみられるか、関連知識の正確さを総合的に評価する。レポート（50％）、口頭試問（50％）を基準とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。使用しない。

授業計画

下記に関する課題を前期 1 課題、後期 1 課題与えるので、最新情報を自ら検索、入手し読解、吟味しレポート（2 0 0 0 字以上）を作成する。課題は最新のトピックスに応じて変遷するので固定されたものではない。レポート作成後に口頭試問を行い内容の理解の程度、周辺知識の正確さを問う。

- 1．生活習慣病の成因
- 2．生活習慣病の発症機序
- 3．生活習慣病予防法の現状と問題点
- 4．生活習慣病の新たな理論的予防法の考案

スクーリング時に、提出されたレポートを基に討議することで内容に関する理解を深める。

授業外学習

自ら生活習慣病予防に関する新知見や研究動向を国際英文ジャーナルから選択しレポート作成するための準備が重要となる。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は適宜案内する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	4．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

運動と休養とともに健康の概念を考える上でなくてはならない食事の重要性について、食環境・食形態・疾病構造・保健医療福祉制度の変化といった「食」を取り巻く諸問題とともに学び、食生活や生活習慣がもたらす健康との関連などを理解する。
健康分野の高度な専門知識を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

- 1 食生活や生活習慣がもたらす健康との関連などを理解し、説明できる。
- 2 「食」を取り巻く諸問題を自らの問題としてとらえ、自分に合った食生活や生活習慣を実践することができる。

評価方法

レポート70%（到達目標1、2）、口頭試問30%（到達目標1）により評価する。

注意事項

- ・栄養学の基礎知識が必要。
- ・定期的に進捗状況を報告すること。

授業計画

【レポート課題】

下記項目から関心のあるテーマを前期・後期に各 1 つ選択し、1 テーマ4,000 字程度のレポートを作成する。

1. 環境と食生活
2. 健康と環境
3. 各種疾患と食品の機能性
4. 食習慣の展望

授業外学習

関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、課題レポート作成に取り組む。

教科書

「食品機能学への招待－生活習慣病予防と機能性食品－」・須見洋行、矢田貝智恵子・三共出版・ISBN978-4-7827-0685-5

参考書

「食Up to Date―食と健康|食と安全|食と環境」・松田覚・金芳堂・ISBN978-4-7653-1167-0
上記以外の参考書については、適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	21 ～ 19 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

健康管理に関わる基本的な機器の操作、測定方法、データ解析方法を習得し、定期的に計測することで、自己の健康管理、身体づくりを行う。

健康増進・スポーツ時などにおける健康管理の方法などを調査・分析し、その結果に基づいて実験・研究計画の立案、実施、評価、判定を行う能力を養う。

健康分野の高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

- 1 体成分分析や骨密度測定などの操作ができ、結果説明ができる。
- 2 日常生活の中で自己の健康状態を把握するにはどのようにするかを理解し、説明できる。
- 3 健康増進・スポーツ時などにおける健康管理の方法を学び、説明できる。
- 4 健康管理について、調査・分析し、その結果に基づいて実験・研究計画の立案、実施、評価、判定を行うことができる。

評価方法

機器操作20%（到達目標1）、レポート・報告書80%（到達目標2～4）に基づいて総合的に評価する。

注意事項

- ・講義「食生活と健康の研究」を履修のこと。
- ・レポートの作成などについて、不明な点、疑問などがあれば、早い段階で質問し、問題を解決すること。

授業計画

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週～第5週 研究（調査・実験）テーマの選択、研究テーマに基づく文献講読
- 第6週～第14週 研究テーマに基づく文献講読およびレポート作成、調査・実験計画の立案
- 第15週 スクーリング（各種機器の操作・測定方法、データ解析方法）
- 第16週～第17週 報告書提出、研究テーマ決定、研究計画立案
- 第18週～第20週 研究テーマの決定・研究計画の提出
- 第21週～第25週 研究およびデータの整理・考察、文献講読
- 第26週～第29週 報告書作成
- 第30週 スクーリング

【レポート】

各期において、進捗状況報告を兼ねてレポートを作成・提出する。

- 前期：テーマに基づく調査・実験の骨子作成
- 後期：調査・実験の進捗状況報告

【スクーリング時における指導内容】

- ・選択したテーマについて、新たな知見などを含めた補完的な講義を行う。
- ・提出されたレポートの内容に関する質疑応答を通して、理解を深める。

【報告書】

各期において、スクーリング後に報告書を作成・提出する。

- 前期：提出されたレポートをまとめる
- 後期：前期報告書および研究テーマに基づく調査・実験データをまとめる

授業外学習

- ・定期的に体成分分析を行い、毎日の生活の中で、健康の維持増進のための事項を実践する。
- ・関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、レポート作成に取り組む。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	4．0 単位
担当教員	 妹尾護

授業の概要

河川水、地下水の水質特性と水質汚染、工業生産活動による重金属元素等の土壌汚染をテーマとして取り上げ、私たちの身近な環境問題としての水質汚染や土壌汚染についての理解を深めるとともに、汚染対策方法等を考える。

到達目標

私たちの生活環境における水や土壌について、各成分の環境基準値や人体への影響等を理解し説明ができる。

評価方法

教科書および参考資料に関するレポートを 80%、口頭試問を 20%として成績評価を行う（到達目標を評価）。

注意事項

必要に応じて、関心のあるテーマに関する参考資料を送付する。

授業計画

河川水、地下水等の水質についての分野や工業生産活動による土壌汚染に関する分野の中から、関心のあるテーマを選び、教科書や参考資料を基にして 1課題 4000字以上のレポートを作成し、前期と後期にそれぞれ提出する。また、口頭試問により、選択したテーマについての理解度、問題点のとらえ方をみる。

授業外学習

教科書以外の参考資料についての学習を進め、レポート作成を行う。

その他、適宜学習内容について、メール等で指示する。

教科書

拡大する土壌・地下水汚染－土壌汚染対策法と汚染の現実、畑明郎（著）、世界思想社、ISBN978-4-7907-1044-8

四大公害病、政野淳子（著）、中公新書、ISBN978-4-12-102237-0

参考書

適宜紹介する。

備考

環境リスク実験（HCH24）

通年

Experiment of Environmental Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	21 ～ 19 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 妹尾護

授業の概要

水道水、河川水、地下水の水質調査、河川の底質、瀬戸内海の底質、道路脇粉塵等の土壌調査を通して、サンプリング方法や試料の機器分析方法を習得する。また、得られたデータについて、解析・考察・まとめを行い、最終的にレポートを作成する。

到達目標

- 1 水質汚染や土壌汚染に関する調査方法、また機器による分析方法を身につける。
- 2 試料を採取した後、分析等によって得られたデータを考察し、環境科学分野のレポートとしてまとめる。

評価方法

スクーリング等で実験に取り組む態度・姿勢 3 0 %、レポート 7 0 %により成績評価を行う（到達目標 1、2 を評価）。

注意事項

レポートの進展に応じて、中間発表を行う。土曜日、日曜日に野外調査を行う場合がある。

授業計画

水道水、河川水、地下水等の水質についての分野、工業生産活動による重金属元素等の土壌汚染に関する分野の中から関心のあるテーマを選び、自ら選定したフィールドで調査と分析試料のサンプリングを行う。そしてスクーリング時に各種分析装置を用いて実際に分析を行う。その後、得られたデータをパソコン等で表や図に文献等を参考にしながら検討・考察を行って、最終的にレポートとしてまとめる。

授業外学習

実験を進める上で必要な、試料採取の方法、試料の準備、分析方法等については、参考資料等を紹介する。
その他、必要に応じて、実験方法、データ処理等に関することをメールで指示する。

教科書

参考資料を使用する。（教科書は使用しない）

参考書

実験の進展状況に応じて、適宜紹介する。

備考

特別研究（HCH27）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 唐川千秋

授業の概要

各自の研究課題の実施プランを具体化し、より質の高い修士論文作成を行う。

到達目標

- （1）研究課題を自分で見つけ出し、それに科学的にアプローチできる能力を身につける。
- （2）研究成果を適切な用語で、専門性が高く、かつ分かりやすく論旨展開して公表できる。

評価方法

提出された修士論文(50%)（到達目標1・2）および口頭発表時の試問への応答(50%)（到達目標2）に基づいて評価する。

注意事項

1年次9月下旬・2月中旬、2年次9月下旬に中間発表を行うので、早めに準備する。

授業計画

1年次

4月 オリエンテーション（スクーリング）

- テーマの明確化、先行研究の精読
- 先行研究間の関連付け
- 論点の明確化

8月 具体的研究計画の検討（スクーリング）

- 第一実験・調査手続きおよび材料の具体化・修正
- 実験・調査の実施
- 結果の整理、考察

2月 第二実験・調査の具体的研究の検討（スクーリング）

- 手続きおよび材料の具体化・修正
- 実験・調査の実施
- 結果の整理、考察

2年次

8月 中間発表（スクーリング）

- （場合により追加実験・調査）
- 初稿提出
- コメント（スクーリング）
- 修正稿提出

1月 論文提出

2月 口頭試問（スクーリング）

※その他進捗状況に応じて適宜スクーリングないし通信指導を行う。

授業外学習

- ・既読の文献の内容を整理する。
- ・実験・調査を行い、それらを適切なかたちでまとめる。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて文献を提示する。

備考

特別研究（HCH29）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 河野正英

授業の概要

資本主義や市場経済の特徴を理解し、現代社会に対する将来展望を持てるようにしたい。

到達目標

- 1) 世界経済の現状、日本経済の現状について知る。
- 2) 時事問題に対して知識を持ち、自分の言葉で説明出来る。
- 3) 各自設定したテーマに基づき修士論文を完成させる。

評価方法

資料検索の範囲（20％）＋資料分析の深度（30％）＋全体的な論文の仕上がり（50％）により評価する。（到達目標 1)~3) を確認）

注意事項

特になし。

授業計画

前半

論文作成の基礎知識

資料検索の方法

資料分析の方法

スクーリング（中間発表 1）

後半

文章作成と論旨の徹底化

論文としての完成度を高める方法

スクーリング（中間発表 2）

修士論文の完成とこれに合わせたスクーリング

完成原稿の提出

口頭試問（修論発表）

授業外学習

読むべき資料はメール等で指示する。

各自で資料を読み、文章にまとめる。

普段から時事的なニュースを注意して見ておくこと。

教科書

適宜指示する。

参考書

適宜指示する。

備考

特別研究（HCH32）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

生活習慣病と高齢者疾患をキーワードとした研究を行い修士論文としてまとめる。

到達目標

科学的論理的思考法を覚え、科学論文として専門ジャーナルに投稿できる能力を身につける。

評価方法

研究過程における毎月の進捗状況報告レポート（５０％）および最終修士論文の発表内容（５０％）により評価する。

注意事項

9月、2月に中間発表を行うので早めに準備すること。

授業計画

1 年次

4 月 オリエンテーション（スクーリング）

研究テーマの決定：興味ある分野からの研究案の提出、先行研究の有無、新規研究としての独創性、研究の妥当性、研究場所の確認、研究資金の確認の後決定する。

研究計画立案：期間内に終わるよう無理のない範囲での研究とする。目的に沿った合理的な実験手段であり、倫理的にも問題ないことを確認する。

どのような結果が想定されるのか、想定外の結果にどう対処するのかまで考慮しておく。

8 月 具体的研究計画の検討（スクーリング）

9 月 中間発表

実験研究：綿密に無理なく計画に沿って行う。

2 月 中間発表（スクーリング）

実験結果の整理、評価：適切な統計処理を行い、簡潔明瞭な表・グラフを作成する。

実験結果の考察：関連分野の論文を読破し、自らの研究結果の位置づけを把握する。

2 年次

8 月 スクーリング

9 月 中間発表

論文作成：推敲を重ね、教員の指導を受けつつ完成させる。

1 月 論文提出、抄録作成

修士論文審査会に向けた発表準備（スクーリング）

2 月 修士論文発表会（スクーリング）

授業外学習

授業以外に文献検索などの自己学習を積極的にすすめること。メールでの質疑応答は随時受け付ける。

教科書

教科書使用しない。

参考書

参考文献は、適宜案内する。

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

これまで修得してきた食や健康に関する知識やスキルを踏まえ、さらに健康分野の高度な専門知識・技能を身につけ、その成果を修士論文にまとめ、発表することを目的としている。具体的には、修得した分析能力・問題解決能力・研究能力をさらに高度化し、設定したテーマについて、調査・研究を進め、関連する文献を収集・講読し、新たな知見を得、それら研究成果を修士論文としてまとめて発表を行う。

到達目標

- 1 分析能力・問題解決能力・研究能力をさらに高度化し、研究活動を行なうことができる。
- 2 研究成果を修士論文としてまとめ、提出する。
- 3 食と健康について理解を深め、研究発表能力を身につける。

評価方法

研究活動60％（到達目標1）、修士論文発表会および提出論文の評価40％（到達目標2、3）により評価する。

注意事項

- ・定期的に進捗状況を報告すること。
- ・研究テーマによっては、「人を対象とする研究倫理」等についての研修会を受講すること。

授業計画

1 年次

前期

- ・オリエンテーション
- ・研究（調査・実験）テーマと方法の設定
- ・研究計画の立案
- ・研究（調査・実験）に関連する文献収集・講読および実施
- ・研究計画書作成（スクーリング：8 月）
- ・研究（調査・実験）の実施
- ・中間報告会（9 月下旬）

後期

- ・研究（調査・実験）の実施
- ・研究計画の確認（スクーリング：12 月）
- ・中間報告会（2 月中旬）

2 年次

前期

- ・オリエンテーション・研究計画の確認
- ・研究（調査・実験）の実施、文献収集・講読
- ・研究計画書作成（スクーリング：8 月）
- ・研究（調査・実験）の実施
- ・中間報告会（9 月下旬）

後期

- ・研究（調査・実験）の実施
- ・中間報告会（12 月下旬）
- ・査読用修士論文提出準備
- ・修士論文要旨・査読用論文提出（1 月末の平日㍻切）

- ・修士発表会準備
- ・修士論文発表会口頭試問（2月中旬）
- ・修士論文作成（最終）
- ・修士論文提出（2月第4水曜日〆切）

【スクーリングにおける指導内容】

- ・研究テーマに関連する新たな知見などを含めた研究指導・論文作成等の指導を行う。
- ・研究テーマに関する質疑応答を通して、理解を深める。
- ・研究の進捗状況を確認し、研究計画を見直す。

授業外学習

関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、修士論文作成に取り組む。

教科書

なし

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 大川元久

授業の概要

本講座は医学教育や研究に携わる者としての基本的な考え方や方法論をもとに研究を実践されるものである。その特徴は救急・災害医療を病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していくものである。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究において研究を含む『教える技術』について理解と実践にその習得に重きを置く。すなわち『教えることを学ぶ』ことである。ついで、医療教育システムのインストラクショナルデザインについて学び応用出来るようにする。講義はeラーニングなどを活用し、各個人が持つ能力を最大限に引き出し社会に貢献できる人材を養成する。講義の前提は多くの人の尊い命のことを考えた生命倫理に基づくことであることをしっかり認識しておいて下さい。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行い、学術的プレゼンテーションができる。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%)、レポート(20%)、口頭試問(20%)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

救急・災害医療を教育学に共通する要素を研究対象とする医療教育学の視点から、救急・災害医療について研究する。配布資料は各回に送付する。

4月のオリエンテーションを行ったのちに教科書：上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザインからアウトラインとして学習項目をレポート課題として提出する（Google driveの使用法など詳細は随時説明する）。特に、その研究テーマを選定した動機・研究対象の背景・現在の課題を明確にする。この段階が総論的な学習で7回目の講義までの計画となる。続いて学習者の到達目標と現状とのギャップを埋めるために必要な項目・技術について学習を実施していく。特に8回目以降は各論的に自らのプレゼンテーションを活用して学んでいく。これらの後に科目修了試験（関連学会等での発表に代用可）をもって単位認定する。

授業外学習

救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。

全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジー：教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修翻訳・北大路書房・978-4-7628-2818-8
インストラクショナルデザイン―教師のためのルールブック 島宗 理 著/米田出版 (2004/11)
その他を授業中に紹介する。

備考

救急・災害医療の実践教育研究（HCH17）

通年

Research on Disaster and Emergency Medicine

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	21 ～ 19 CH
単位数	4. 0 単位
担当教員	 大川元久

授業の概要

救急・災害医療において、病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学の視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していく。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究(20項目)において研究の仮説の立て方から研究デザインを考案し、具体的な論文作成方法の基本を学ぶ。また研究の基礎となる統計分析法の理解と実践にその習得に重きを置く。特にインストラクショナルデザインを基とした医療教授法を身に着ける。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行い、学術的プレゼンテーションの技術を学び、科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%)、レポート(20%)、口頭試問(20%)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

救急・災害医療を教育学に共通する要素を研究対象とする医療教育学の視点から、救急・災害医療について研究する。

4月のオリエンテーションを行ったのちに指定図書：インストラクショナルデザインとテクノロジー：教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修 翻訳・北大路書房 から以下の二つのテーマを学習しレポート課題（4000字以上）として提出してもらいます。

レポート1. ガニエの9教授事象について精読し、自分自身を対象学習者として研究テーマの学習過程を9事象にまとめて各事象を開説する。

スケジュール調整のうえ6回の実践的学習を行います。毎回、指定図書の重点ポイントを示します。難解な文書でもある指定図書を助言・指導のもとに読み解いていく形式で行います。

次いで以後、研究テーマについて随時、SkypeやFaceTimeおよびLINEを用いて通信指導としてe-ラーニングを実施します。

学習レポート課題（4000字以上）は

レポート2. カークパトリックの4段階評価モデルを用いて今後のゴールである研究発表の過程を評価する計画をたてる。

年度後半に際しては口頭試問を実施し、同様に研究テーマについて随時、SkypeやFaceTimeおよびLINEを用いて通信指導としてe-ラーニングを実施します。

授業外学習

救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。

全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題 鈴木 克明 (監修, 翻訳) 北大路書房(2013/9/28) ISBN: 978-4762828188

参考書

上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

インストラクショナルデザイン-教師のためのルールブック 島宗理 米田出版

備考

救急・災害医療の実践教育演習（HCH18）

通年

Seminar in Disaster and Emergency Medicin

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	21 ～ 19 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 大川元久

授業の概要

救急・災害医療において、病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していく。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究(20項目)において研究の仮説の立て方から研究デザインを考案し、具体的な論文作成方法の基本を学ぶ。また研究の基礎となる統計分析法の理解と実践にその習得に重きを置く。特にインストラクショナルデザインを基とした医療教授法を身に着ける。特に、その研究テーマを選定した動機・研究対象の背景・現在の課題を明確にします。このレポートから学習者の到達目標と現状とのギャップを埋めるために必要な項目・技術についてスクーリングを実施していきます。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行い、学術的プレゼンテーションの技術を学び、科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%)、レポート(20%)、口頭試問(20%)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

4 月のオリエンテーションで救急・災害医療の学習資料について説明する。基本的な習得すべき知識の確認を総論的内容として確認していく（1 0 回目まで）。レポート提出については規定に則り随時説明する。9 月には外傷診療の基本知識であるJATECを習得したものとして災害医療に導入できることを確認する。この段階で習得した知識を総括できるようになる。とくに、医療教授法 インストラクショナルシステムデザイン(ISD)を理解できるように自選する。後半の学習内容は、プレゼンテーションを実践するための知識として学んだことを國人していく。同時に統計学的手法を自身の研究に取り込むことを確認していく。ここで後期半ばでレポート提出を行う。最終的には関連学会で発表できる形にまとめることで、実際の発表と修了とする。

授業外学習

救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。

全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題 鈴木 克明 (監修, 翻訳) 北大路書房(2013/9/28)ISBN:978-4762828188

あなたのプレゼン誰も聞いてませんよ!ーシンプルに伝える魔法のテクニック 渡部欣忍著 南江堂 (2014/4/1)ISBN:978-4-524-26127-7

その他、授業中に紹介する。

備考

年次	1年
対象	22 ～ 21 CH
単位数	4．0単位
担当教員	湯川尚一郎

授業の概要

人間と動物の健康生活は、自然環境（空気、水、土壌等）や生活環境（水道、生活污水、ごみ、人間と動物の食生活等）および社会環境と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の両方に関する健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識を修得する。とくに重視する事項は健康事象の疫学的理解・人間と環境の相互作用の理解ならびに人間と動物が共生する衣食住の重要性の理解である。

到達目標

1. 健康の成り立ちを生活レベルから多要因的に理解し、人間と動物の健康生活のために考え、行動することができるように、考え方や知識および技術を理解し説明できるようになる。

評価方法

レポートの提出状況と内容70%（到達目標 1 を評価）と口頭試問の内容30%（到達目標 1 を評価）で評価し、総合計 6 0 点以上を合格とする。

注意事項

レポート作成にあたって、先行研究を十分把握した上で取り掛かること。課題で示された内容に答えるだけでなく、最新のニュースとの関連を含め自らの考え・見解・感想を含めること。
質問事項があれば、メール等で問い合わせること。

授業計画

【授業計画】

【レポート課題Ⅰ】

犬猫の受動喫煙による健康への影響についての論文を3報以上挙げ概説したのち、人間と動物の受動喫煙に対する具体的な対策と提言を4000字以上にまとめなさい。

＜参考資料＞

NLM(米国国立医学図書館:National Library of Medicine)内の、NCBI(国立生物科学情報センター:National Center for Biotechnology Information)が作成しているデータベースPubMedにアクセスし、必要な文献を調べること。

【レポート課題Ⅱ】

犬用フード・トリーツにおける大腸菌群・多剤耐性大腸菌検出についての論文を3報以上挙げ概説したのち、犬用フード・トリーツの安全性向上に関する具体的な提言を4000字以上にまとめなさい。

＜参考資料＞

NLM(米国国立医学図書館:National Library of Medicine)内の、NCBI(国立生物科学情報センター:National Center for Biotechnology Information)が作成しているデータベースPubMedにアクセスし、必要な文献を調べること。

授業外学習

過去の文献を探し、読むことで学びの内容を深めるようにすること。

教科書

職場の健康がみえる 産業保健の基礎と健康経営 | 泉 博之ら監修 | メディックメディア社 | ISBN978-4-89632-782-3

公衆衛生がみえる 2018-2019 | 石川 雅俊ら監修 | メディックメディア社 | ISBN978-4-89632-687-1

大学生 学びのハンドブック[4訂版] | 世界思想社 編集部 | 世界思想社 | ISBN978-4790717072

参考書

環境白書2019（環境省）, 国民衛生の動向2019/2020（厚生労働統計協会）

備考

年次	1年
対象	22 ～ 21 CH
単位数	2. 0単位
担当教員	 湯川尚一郎

授業の概要

人間と動物の健康生活は、自然環境（空気、水、土壌等）や生活環境（水道、生活污水、ごみ、人間と動物の食生活等）と大きく関わっている。すなわち、健康の成り立ちは“人間・動物と環境の相互作用”であるという理解の下、人間と動物が健康に生活していく上での阻害要因や促進要因に関して各自関心のあるテーマを取り上げる。

到達目標

1. 公衆衛生学に関するテーマを研究視点でみるができるようになる。

評価方法

課題レポートおよびスクーリング時における質疑応答により評価する。評価は、レポート 70%（到達目標 1 を評価）、質疑応答 30%（到達目標 1 を評価）の重みで判定し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

進捗状況の報告を長期にわたって怠らないこと。
主観的なデータではなく、客観的な根拠に基づくデータを引用すること。

授業計画

【レポート課題1】

1. 公衆衛生学における「犬猫から人への病原体の感染」を事例を出しながら概説し、犬猫から人への病原体感染の対策と提言を2000字以上にまとめなさい。

（参考資料）

厚生労働省 動物由来感染症HP

日本獣医師会 HP

関連するWebサイト

【レポート課題2】

2. 初めて実施する動物病院における子犬のふれあい教室（パピークラス）の方法と準備、配慮しなければならない点を2000字以上で説明しなさい。

（参考資料）

厚生労働省 動物由来感染症HP

日本動物病院協会 HP

関連するWebサイト

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。その結果、人と犬のふれあいにおける視点や公衆衛生対策を実践することを学ぶ。

授業外学習

できるだけ多くの本や論文を読み、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医公衆衛生学Ⅰ | 獣医公衆衛生学教育研修協議会 | 文英堂出版 | ISBN978-4830032509

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム準拠 獣医公衆衛生学Ⅱ | 獣医公衆衛生学教育研修協議会 | 文英堂出版 | ISBN978-4830032516

参考書

備考

年次	1年
対象	21～19 CH
単位数	4. 0単位
担当教員	 川添敏弘

授業の概要

「環境」という枠組みは広いが、大きく「人的環境」と「物的環境」に分けることができる。そして、この科目ではこの2つの領域が重なり合う部分に重点をおいた授業を展開していく。キーワードとして「心理学」「動物行動学」「幼児教育」「障害者福祉」「高齢者福祉」をESD（持続可能な開発のための教育）やSDGs（持続可能な開発目標）を意識しながら学習していく。授業の一部は学外で実施する予定である。

【アクティブラーニング】ワークショップやアクティブラーニング形式で実施する。

到達目標

1. グローバルな視点で環境や生命を語ることができる。
2. 身近な環境や生命に対して高い問題意識を持てる。
3. 様々な地域活動を理解し、行動するための知識や技能を獲得する。

評価方法

出席状況や授業内でのディスカッションにおける積極性（40%）、レポートの提出状況と内容（60%）により成績を評価し（到達目標1～3を評価）、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

- ・グローバルな視点と身近な環境の両方の内容で実施する。
- ・学外での教育活動を実施する際、土日になる場合がある。
- ・各授業は関連性が薄い場合もあるが、最終的に体系的に捉えることができるようにしていく。
- ・ワークショップやアクティブラーニング形式で実施するので、人前で発言することが苦手な学生は事前に相談に来ること。

授業計画

第1回 オリエンテーション

第2回 子どもの発達と環境（総論）

第3回 子どもの発達と環境（屋内あそび）

第4回 子どもの発達と環境（飼育活動）

第5回 子どもの発達と環境（栽培活動）

第6回 ビオトープとかいぼり

第7回 外来生物による環境破壊

第8回 環境破壊への取り組みとESD・SDGs

第9回 紫外線の影響とヒトへの影響

第10回 地球環境破壊による動物への影響

第11回 飽食文化とベジタリアン

第12回 資本主義経済と貧困問題、環境破壊

第13回 ディスカッション（子どもから預かっている環境）

第14回 学習理論（単一学習と連合学習）

第15回 学習理論（シェイピング・系統的脱感作）

第16回 イヌの育て方（訓練）

第17回 発達障害者への動物介在介入事例

第18回 動物介在介入の理論

第19回 精神疾患患者の症状と関わり方

第20回 不登校と子どもの支援（箱庭・アサーション・コラージュ）

第21回 教室内での子どもの支援（対人関係ゲーム・エンカウンター）

第22回 身体障害者への支援のあり方と補助犬

第23回 バリアフリーという環境について考える（体験学習）

第24回 高齢者施設での動物介在活動

第25回 認知症の症状とのコミュニケーション法

第26回 カウンセリングとその技術

第27回 心理テストによる自己分析

第28回 芸術療法による自己分析

第29回 地域マルシェを創ってみよう1（アイデア）

第30回 地域マルシェを創ってみよう2（発表）

授業外学習

- ・メディアからの情報を娯楽として眺めるのではなく、授業で学んだことと結び付けて考えるようにする。
- ・実際にボランティアや地域イベントに参加することで、地域環境や生命について考える機会とする。
- ・授業内で各項目についてディスカッションができるよう、予習により自分の考えを持てるように事前準備する。

教科書

特に指定しない

参考書

知りたい！やってみたい！アニマルセラピー2016（駿河台出版社）

備考

年次	1 年
対象	21 ～ 19 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 川添敏弘

授業の概要

人間動物関係学のテーマに深く取り組んでいくことを目標とする。

人間動物関係学は分野をまたがり、融合し、新たな分野がつくられてきた。本授業でも、医学、心理学、福祉学、動物行動学、社会福祉学、地域コミュニティ学などについて幅広く学んでいく。講義ではワークショップやアクティビティを行いながら実施していく。振り返りの中で多様な環境の重要性を理解し、他者を支援することや地域連携を行う力を身に付けていく

この演習では、特に「ドッグトレーニング」と「動物介在介入」について学びながら科学的視点を持った知識を身に付けていく。

到達目標

人間動物関係学に関するテーマを研究視点でみることができるようになる。

1. 地域を取り巻く社会福祉における課題を理解する
2. 子どもに必要な環境を理解する
3. 自分のことを理解する
4. 地域活動を理解する
5. 地域活動の立案、計画ができるようになる

評価方法

講義時の討論や質疑応答（30%）、レポート（40%）、プレゼン内容（30%）により成績を評価し（到達目標1～5を評価）、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

環境と生命について広く理解していくことを目標とする。

講義でのワークショップ等に積極的に参加すること。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 高齢者施設での傾聴ボランティア
3. アニマルセラピーの始め方
4. イヌのハンドリング
5. 犬のトレーニング（基礎）
6. 犬のトレーニング（散歩）
7. 犬のトレーニング（問題行動の制御）
8. 犬のトレーニング（拮抗条件付け）
9. 動物介在活動（活動準備）
10. 動物介在活動（認知症）
11. 動物介在活動（レクリエーション）
12. 動物介在活動（アニマルセラピー）
13. 動物介在教育（活動準備）
14. 動物介在教育（幼稚園訪問）
15. 動物介在教育（活動計画）
16. 動物介在教育（アニマルセラピー）
17. 動物介在教療法
18. 動物介在介入（活動準備）
19. 動物介在介入（知的障害者での活動）
20. 動物介在介入（知的障害者の行動の問題「受動」）

21. 動物介在介入（知的障害者の行動の問題「粗暴」）
 22. 自分を知る心理テスト
 23. 芸術療法の理論と体験
 24. コラージュの体験と発表
 25. 子どものあそび（導入・仲間づくり・折り合う）
 26. 子どもと工作（満足できる工作）
 27. 動物園・水族館の歩き方（計画と準備）
 28. 動物園・水族館の歩き方（活動）
 29. 動物園・水族館の歩き方（振り返り）
 30. プレゼン発表、まとめと質疑
-

授業外学習

できるだけ多くの本や論文を読み、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

予習：指定された課題を読んでくる。

復習：講義内容や活動をまとめ、課題を提出する。

教科書

使用しない、講義の中で資料を配布する。

参考書

適宜案内する

備考

特別研究（HCH55）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 枝松千尋

授業の概要

バイオメカニクスに関する研究を行い修士論文としてまとめる。

到達目標

- 1 「研究課題に対して科学的にアプローチする力を身につける」
- 2 「学会発表・論文投稿ができる力を身につける」

評価方法

特別研究に取り組む態度・姿勢(30%)、修士論文発表会および修士論文(70%)により総合的に評価する。

上記の評価方法により、到達目標の達成度を総合的に評価し、総合計60点以上を合格とする。

注意事項

実験に関する諸手続き、発表や審査、論文提出などの日程を十分に把握しておくこと。

授業計画

- 1週目：オリエンテーション
- 2週目～8週目：先行研究の調査とテーマの設定
- 9週目～10週目：研究の実施に関わる諸手続き
- 11週目～20週目：実験の実施および解析
- 21週目～25週目：論文作成
- 26週目：発表準備
- 27週目：修士論文発表
- 28週目～29週目：論文の加筆・修正
- 30週目：論文提出

授業外学習

文献収集を徹底して行う。

実験を計画的に行うとともに、データ解析を営々と取り組む。

教科書

使用しない。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

企業や非営利団体、公共団体など様々な組織は、絶えず変化する環境の中で経営活動を行っている。さらに、グローバル化やICTなど技術の発展に伴い、企業が行う意思決定は、より高度化・複雑化している。現在社会において組織が抱える課題や業界の動向、リスク対策など、経営学から捉えた研究テーマを設定し、文献調査、アンケート調査等を行う。得られた資料を分析・解析し、考察を加えて最終的に修士論文としてまとめる。

到達目標

- 1．企業活動に対する関心を高め、様々な文献にあたり、自身のテーマを決定することができる。
- 2．文献使用やアンケート結果の分析・解析を行うことができる。
- 3．論文作成上必要な論理的思考とその展開方法を身につける。
- 4．最終的に修士論文を作成し、内容をプレゼンテーションすることが出来る。

評価方法

特別研究へ取り組む態度・意欲：10％（到達目標 1 を評価）、資料検索の範囲：20％（到達目標 1 を評価）、資料分析：20％（到達目標 2 を評価）、中間発表：10％（到達目標3を評価）、全体的な論文の仕上がり：40％（到達目標3、4を評価）により評価する。

注意事項

- ・指導事項をよく聞いて理解すること。
- ・論文執筆に必要な研究手法について、基本的なことをしっかりと理解しておくこと。

授業計画

【1 年次】

前期

- ・オリエンテーション
- ・研究（調査・実験）テーマと方法の設定
- ・研究計画の立案
- ・研究（調査）に関連する文献収集・講読および実施
- ・研究計画書作成（スクーリング：8 月）
- ・研究（調査）の実施
- ・中間報告会（9 月下旬）

後期

- ・研究（調査）の実施
- ・研究計画の確認（スクーリング：12 月）
- ・中間報告会（2 月中旬）

【2 年次】

前期

- ・オリエンテーション・研究計画の確認
- ・研究（調査）の実施、文献収集・講読
- ・研究計画書作成（スクーリング：8 月）
- ・研究（調査・実験）の実施
- ・中間報告会（9 月下旬）

後期

- ・研究（調査・実験）の実施

- ・ 中間報告会（12月下旬）
- ・ 査読用修士論文提出準備
- ・ 修士論文要旨・査読用論文提出
- ・ 修士発表会準備
- ・ 修士論文発表会口頭試問（2月中旬）
- ・ 修士論文作成（最終）
- ・ 修士論文提出

【スクーリングにおける指導内容】

- ・ 研究テーマに関連する新たな知見などを含めた研究指導・論文作成等の指導を行う。
- ・ 研究テーマに関する質疑応答を通して、理解を深める。
- ・ 研究の進捗状況を確認し、研究計画を見直す。

授業外学習

学習時間の目安：240時間

- ・ 各自のテーマにあわせて、関連する先行研究となる文献や書籍に多くあたること。
- ・ 研究の進捗について、メールで定期的に報告できるように準備しておくこと。

教科書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

参考書

それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

特別研究（HCH57）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

持続可能な社会の構築のために、IoTなどの情報技術を活用する研究を行う。各自が研究テーマを設定し、文献調査、システムの設計や構築、運用テスト等を行う。得られた結果を分析・解析し、考察を加えて最終的に論文としてまとめる。

到達目標

1. 情報技術を使って社会で役立つものを提案や構築することができる。
2. 文献等を読み、自力で自分の技術力を向上させ、それ以前に、できなかったことができるようになる。
3. 最終的に論文を作成し、内容をプレゼンテーションすることが出来る。

評価方法

- ・特別研究に取り組む態度・意欲40%(到達目標の1、2を評価)、論文内容・プレゼンテーション60%(到達目標の3を評価)の重みで判定する。

注意事項

- ・仮想環境(VirtualBox等)が動作するノートパソコンを持参すること。

授業計画

【授業計画】

1 年次

前期

- ・オリエンテーション
- ・研究（調査・設計・実装・実験）テーマと方法の設定
- ・研究計画の立案
- ・研究（調査・設計・実装・実験）に関連する文献収集・講読および実施
- ・研究計画書作成（スクーリング：8月）
- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施
- ・中間報告会（9月下旬）

後期

- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施
- ・研究計画の確認（スクーリング：12月）
- ・中間報告会（2月中旬）

2 年次

前期

- ・オリエンテーション・研究計画の確認
- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施、文献収集・講読
- ・研究計画書作成（スクーリング：8月）
- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施
- ・中間報告会（9月下旬）

後期

- ・研究（調査・設計・実装・実験）の実施
- ・中間報告会（12月下旬）
- ・査読用修士論文提出準備

- ・修士論文要旨・査読用論文提出（1月末の平日〆切）
 - ・修士発表会準備
 - ・修士論文発表会口頭試問（2月中旬）
 - ・修士論文作成（最終）
 - ・修士論文提出（2月第4水曜日〆切）
-

授業外学習

常に研究の進行状況の報告を求めるので、いつでも発表できるように準備しておくこと。

教科書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、苅田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

参考書

必要に応じて、適宜紹介する

備考

特別研究（HCH58）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 川添敏弘

授業の概要

ここまで取得してきた「ヒトと動物の関係学」に関連する分野を中心に研究課題を設定する。心理学や福祉学に関連する質問紙調査研究に関する議論が中心となるが、フィールドワークやインタビューによる分析など調査方法も広く学びながら修士論文を作成する知識と技術を学んでいく。その過程で課題設定や問題解決能力を身に付けていく。

到達目標

- 1．実験・研究方法、論文の読み方・書き方を習得し、研究（調査・実験）結果を解析、評価を行い、修士論文としてまとめる。
- 2．「人間動物関係学」について理解を深め、研究発表能力を身につける。

評価方法

修士論文の内容（40％）および発表会での発表姿勢（20％）や審査内容（40％）で評価する。
上記到達目標 1 ～2ができていくかで評価する。

注意事項

- 研究に関する諸手続き、論文提出の日程、発表の審査などを把握して研究を進めること。
- ・定期的に進捗状況を報告すること。
 - ・「人を対象とする研究倫理」等についての研修会や「実験動物」関連の講習会を受講すること。

授業計画

1年次前期 先行研究の調査、調査研究の立案

4月 スクーリング

収集方法・読み方、研究の方向性を決定していくため幅広く情報を収集し絞り込む
統計学の基礎取得、学習理論の基礎取得

1年次夏期 調査研究課題の決定と手続き、研究方法指導

8月 スクーリング

研究計画書の作成、研究に向けての手続きを決定、予備研究の進行
SPSSの扱いを覚える、応用行動分析の基礎取得

1年次後期 調査研究課題の決定と手続き

2月 スクーリング

予備研究結果報告、研究手法の確認
研究計画修正、研究開始

2年次前期 研究の進行と報告

6月 スクーリング

研究計画書完成、研究の進行と報告、引用文献指導

2年次夏季 研究成果報告

9月 スクーリング

研究結果報告、緒論指導、結果指導、考察指導

2年次後期 論文作成と提出、発表会資料づくり

1月 スクーリング

要旨作成指導、発表準備、議論
修士論文の発表および質疑応答、論文の加筆修正、論文提出

授業外学習

- ・授業で得られた情報を深めるため、文献を集め読み込んでいく。
- ・調査研究に適切に取り組み、必要に応じて報告をあげていく。

・統計学を学習し、データを集計しつつ論文の執筆を進めていく。

教科書

使用しない

参考書

適宜案内する

備考

特別研究（HCH59）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0単位
担当教員	 湯川尚一郎

授業の概要

人間が動物と共に安心して暮らすために、人間と動物を取り巻く様々な課題を解決するための研究を行うことを目的に、各学生が研究課題を設定し、文献調査、実験等を行う。得られた結果を分析・解析し、考察を加えて最終的に論文としてまとめる。

到達目標

1. 実験・研究方法、論文の読み方・書き方を習得し、研究（調査・実験）結果を解析、評価を行い、修士論文としてまとめる。
2. 「公衆衛生学」について理解を深め、研究発表能力を身につける。

評価方法

修士論文および発表会での発表姿勢や審査内容で評価する。評価は、論文へ向き合う姿勢40%（到達目標1, 2を評価）、修士論文内容40%（到達目標1, 2を評価）、発表会での評価20%（到達目標1, 2を評価）とする。

注意事項

研究に関する諸手続き、論文提出の日程、発表の審査などを把握して研究を進めること。

定期的に進捗状況を報告すること。

「人を対象とする研究倫理」等についての研修会や「実験動物」関連の講習会を受講すること。

授業計画

【1年次】

前期 先行研究の調査、調査研究の立案

- ・オリエンテーション
- ・研究テーマと方法の設定
- ・研究計画の立案
- ・研究に関連する文献収集
- ・研究計画書作成（スクーリング：8～9月）

後期 調査研究課題の決定と手続き

- ・研究テーマの確定
- ・研究開始
- ・中間報告と指導（スクーリング：12月）

【2年次】

前期 研究の進捗と報告

- ・研究（調査・実験）の実施
- ・中間報告（スクーリング：8～9月）

後期

- ・研究（調査・実験）の実施
- ・中間報告（スクーリング：12月）
- ・査読用修士論文提出準備
- ・修士論文要旨・査読用論文提出
- ・修士発表会準備
- ・修士論文発表会口頭試問（2月）
- ・修士論文作成（最終）
- ・修士論文提出

【スクーリングにおける指導内容】

- ・課題やテーマ内容を広げたり焦点を深めたりすることで研究課題を明確にしていく
- ・研究テーマに関する質疑応答を通して、理解を深める。
- ・研究テーマに関連する実践的な情報を提供し、研究指導・論文作成等の指導を行う。
- ・研究の進捗状況を確認し、研究計画を見直す。

授業外学習

講義で得られた情報を深めるため、文献を集め読み込んでいく。

調査研究に適切に取り組み、必要に応じ報告をあげていく。

データを集計し、論文の執筆を進める。

教科書

Infectious Diseases of the Dog and Cat: A Color Handbook | J Scott Weese, Michelle Evason : CRC Press | 978-1498775519

ポケットブック 犬と猫の臨床 | Kit Sturgess著 | インターズー | ISBN978-4-89995-886-4

参考書

必要に応じて紹介する。

備考

特別研究（HCH60）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 武光浩史

授業の概要

小動物臨床においてこれまで治療法の確立していない、あるいは検査法の確立していない分野に対して分子生物的手法を用いて新たな知見を得るために、各自が実験計画の立案、参考文献検索、データ解析を行い、論文を作成する。

到達目標

各自のテーマに沿った内容で修士論文の作成を行う

評価方法

論文提出（60％）とプレゼンテーション（40％）

注意事項

論文作成に必要な英語力も並行して身につけること

授業計画

1年次

4月 オリエンテーション（スクーリング）

研究テーマの決定、先行研究の精読

実験プロトコル作成

8月 実験（スクーリング）

実験の実施

結果の整理、考察

2月 データ解析（スクーリング）

中間発表、必要に応じて追加実験

2年次

4月 初稿作成（スクーリング）

中間発表、必要に応じて追加実験

1月 論文提出（スクーリング）

2月 口頭試問(スクーリング)

※その他進捗状況に応じて適宜スクーリングないし通信教育を行う。

【スクーリングにおける指導内容】

- ・課題やテーマ内容を広げたり焦点を深めたりすることで研究課題を明確にしていく
- ・研究テーマに関する質疑応答を通して、理解を深める。
- ・研究テーマに関連する実践的な情報を提供し、研究指導・論文作成等の指導を行う。
- ・研究の進捗状況を確認し、研究計画を見直す。

授業外学習

テーマにおける最新の知見を常にアップデートしておくこと。スクリーニングと合わせて90時間を目安に学習を行う。

教科書

使用しない

参考書

適宜紹介する

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	4．0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

私たちを取り巻くリスクは、多様化・高度化・複雑化している。これまで経営リスクは、損失の発生可能性を中心に議論されていたが、現在は、企業目標に影響を与える可能性として、マイナスの影響とプラスの影響を検討する必要性が議論されるようになった。本講義では、多様化するリスクに対する対策と組織価値向上のための考え方や手法について修得する。

到達目標

- 1．リスクマネジメントについて、概念・理論を理解する
- 2．リスクマネジメント・プロセスとその特徴について、理解する
- 3．効果的なリスクマネジメント導入とその課題について、理解する

評価方法

授業計画に示した 2 つのレポートの提出を求め、レポート 7 5 %（到達目標 1、2 を評価）、口頭試問 2 5 %（到達目標 3 を評価）で総合的に評価する。

注意事項

リスクマネジメントの基礎知識をもっていることがのぞましい。

授業計画

【レポート課題 1】

リスクマネジメント・プロセスとは何か、プロセス全体のねらいや各段階で行うべき作業を整理して、4000 字以上でまとめて下さい
<参考資料>

- ・亀井利明・亀井克之（2009）「リスクマネジメント総論（増補版）」同文館出版978-449537222
- ・奈良由美子（2017）「改訂版生活リスクマネジメント―安全・安心を表現する主体として―」一般財団法人放送大学教育振興会 978-4595140822

関連するニュース、Web サイト など

【レポート課題 2】

企業が必要とされるリスクマネジメントの概要と、導入における課題について、4000 字以上でまとめて下さい。

<参考資料>

- ・上田和勇（2011）「企業価値創造型リスクマネジメント[第 4 版-その概念と事例-]」白桃書房978-4561951100
- ・三菱総合研究所・実践的リスクマネジメント研究会（2010）「リスクマネジメントの実践ガイドーISO31000の組織経営への取組みー」日本規格協会978-4－542-70163-2

関連するニュース、Web サイト

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

新聞やテレビ等のニュースで取り上げられている経営に関するリスクとその対応について常に興味を持ち、切り抜きをノートにまとめるなどの方法で充分に自習しておくこと。また、新聞やテレビのニュースで取り上げられている経営に関するリスクが、どのようにマネジメントされているのか、そのプロセスと課題について理解する。

教科書

特になし。

参考書

上記以外の参考書、参考文献については、それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

経営リスク演習（HCH38）

通年

Seminar in Management Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2. 0 単位
担当教員	 徳田美智

授業の概要

企業や非営利組織などあらゆる組織は、不確実な状況の中で、複雑化・高度化するリスクに対し多様な意思決定を下さなければならない。この講義では、企業など組織が危機の対処に失敗した事例を取り上げ、その対処についてポイントを整理し、リスク対策の手法について考え、レポートにまとめる。

到達目標

1. 事例研究を通して、多様なリスクに対するマネジメントの手法について理解し、説明できる
2. 複雑化、高度化するリスクの概要を把握し、適切な対策が立案できる

評価方法

課題レポートおよびスクーリング時における質疑応答により評価する。評価は、レポート 80%（到達目標 1 を評価）、質疑応答 20%（到達目標 2 を評価）で総合的に判定する。

注意事項

「経営リスク研究」をあわせて受講していることがのぞましい。

授業計画

【レポート課題1】

安全管理に関するリスクの事例（ケース4：鉄道の大規模な脱線転覆事故）において、1) 事故の報告がすばやく正確に伝えられない要因は何か、2)安全と効率という相反する目的をどのように調和させるのがよいか、2000字以上にまとめて下さい。

<参考文献>

- ・危機管理研究会【編著】（2012）「ケースブックあなたの組織を守る危機管理」株式会社ぎょうせい978-4324092583
- ・柳瀬典由、石坂元一、山崎尚志（2018）「リスクマネジメント」中央経済社978-4502256912

関連するニュース、Webサイト

【レポート課題2】

経営に関するリスクの事例（ケース8：地震発生後の事業継続に向けた危機管理）を参考に、災害による拠点の喪失を想定し、具体的にどのような対策を検討する必要があるか、2000字以上にまとめて下さい。

<参考文献>

- ・危機管理研究会【編著】（2012）「ケースブックあなたの組織を守る危機管理」株式会社ぎょうせい978-4324092583
- ・柳瀬典由、石坂元一、山崎尚志（2018）「リスクマネジメント」中央経済社978-4502256912
- ・昆 正和(2012)「実践BCP策定マニュアル」オーム社 978-4274068928

関連するニュース、Webサイト

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。また、スクーリング以降の学習の基礎となる知見について講義を行う。

授業外学習

学習時間の目安：合計120時間

紹介する参考図書・文献にあたり、企業や公的組織が行うリスクマネジメントについて理解する。

教科書

特になし

参考書

上記以外の参考書、参考文献については、それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	4． 0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での基礎となる情報セキュリティとその安全性について幅広い視点から学ぶ。具体的には暗号技術、認証、バイオメトリック、サイバーセキュリティ、情報セキュリティマネジメントシステム、デジタルフォレンジック、法と倫理等について、発表と討論を通して学ぶ。

到達目標

1. 情報セキュリティについて幅広い観点から理解し、情報リスクについて他人と議論するための土台を構築する。

評価方法

・課題レポートおよびスクーリング時における口頭試問により評価する。評価は、レポート70%(到達目標の1を評価)、口頭試問30%(到達目標の1を評価)の重みで判定する。

注意事項

・学修の進め方がわからない場合には、メール等で問い合わせること。
・教科書の内容を理解することを目的にした課題になっているが、さらに踏み込んで、インターネットの記事や新聞、ニュース等で話題になっている事項について関連付けながらレポートをまとめると、より学びが深まり自身の成長につながるだろう。

授業計画

レポート課題1

教科書の1章～7章を読み、情報セキュリティの概要、暗合技術(共通鍵暗号、公開鍵暗号、デジタル署名とPKI、セキュア実装、情報ハイディング技術、バイオメトリックについて合計4000字以上でまとめなさい。

レポート課題2

教科書の8章～14章を読み、サイバーセキュリティ技術、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)および情報セキュリティ監査、CC(ISO/IEC 15408)と情報システムセキュリティ対策の設計・実装、個人情報保護技術、デジタルフォレンジック技法、IoT セキュリティ、法と倫理について合計4000字以上でまとめなさい。

授業外学習

・この講義は、受講生との議論を中心に授業を進めるため、事前に十分な時間をかけて予習を行い、学んだことを資料にまとめてくること。
・日頃から情報セキュリティや情報リスクについて意識するようにする。

教科書

瀬戸洋一、佐藤尚宜、越前功、中田亮太郎、織茂昌之、長谷川久美、渡辺慎太郎、小檜山智久、村上康二郎著、「改訂版 情報セキュリティ概論」、日本工業出版、2019、978-4-8190-3103-5

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、荻田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

情報リスク演習（HCH40）

通年

Seminar in Information Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2. 0 単位
担当教員	 村山公保

授業の概要

情報リスクを考える上での経験値を高めるため、コンピュータシステムの構築と設定を行い、ペネトレーションを行う。具体的には仮想環境上にWindows、Linux(KaliLinux)環境を構築し、コンピュータシステムの機密性、完全性、可用性を脅かす行為について、実機を使った演習を行いながら、理解を深める。

到達目標

1. コンピュータシステム上に演習環境を構築できる。
2. 各種の攻撃手法について理解を深める。

評価方法

・課題レポートおよびスクーリング時における口頭試問により評価する。評価は、レポート70%(到達目標の1、2を評価)、口頭試問30%(到達目標の2を評価)の重みで判定する。

注意事項

- ・各自で仮想環境(VirtualBox等)を構築し、演習を行うこと。
- ・スクーリング時には各自が作成した仮想環境が動作するパソコンを持参するか、それができない場合には仮想環境をUSBメモリ等にコピーして持参すること。

授業計画

レポート課題1

教科書の第1部(第1章～第3章)を読み、仮想環境によるシステムの構築とホストOSの基本設定を行い、実施した内容で得た知見について計2000字以上のレポートにまとめなさい

レポート課題2

教科書の第2部(第4章～第8章)を読み、自分で構築した環境システムに対してハッキングを体験し、得た知見について合計2000字以上でまとめなさい。

授業外学習

- ・実験環境を構築し、試してくる。
- ・パソコンの操作などでつまづいた場合には、インターネットで検索して試しながら探り当てるようにする。

教科書

IPUSIRON著、「ハッキング・ラボのつくりかた 仮想環境におけるハッカー体験学習」、翔泳社、978-4798155302

参考書

井上直也、村山公保、竹下隆史、荒井透、荻田幸雄「マスタリングTCP/IP 入門編 第6版」、オーム社、2019、978-4-274-22447-8

備考

健康運動科学演習（HCH41）

通年

Seminar in Health and Exercise Physiology

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 枝松千尋

授業の概要

本講義は、健康を考える上で基礎になる「身体状況及び能力」を測定する実験機器の操作及び評価基準について学習するものである。さらに運動時の身体の反応について運動生理学・バイオメカニクスに基づく実験を行う。

到達目標

実験機器の測定原理、操作方法、データの読み方を理解する。
実験計画の立案、実施、評価、考察ができる。

評価方法

課題レポート（50％）、スクーリング期間中の機器操作（25％）及びディスカッション（25％）により総合的に判定する。

注意事項

「健康運動科学の研究」を履修していること。

授業計画

運動生理学・バイオメカニクスに関する分野の先行研究を調査し、関心のあるテーマを選ぶ。その後、スクーリングにおいて実験・解析を行う。得られたデータを図表にまとめ、最終的に考察を加えてレポート作成を行う。

授業外学習

実験に取り組むにあたり、先行研究を調査しておくこと。

教科書

使用しない。

参考書

必要に応じて提示する。

備考

生活習慣病予防演習（HCH42）

通年

Seminar in Lifestyle-related Diseases Prevention

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 吉田悦男

授業の概要

生活習慣病予防には多岐にわたるアプローチが存在する。それぞれのアプローチにおける考え方、研究手法を知り、いかなる知見が得られているかを検討する。さらに生活習慣病の成因、発症機序を理解したうえで、理論に基づく効果的予防法を考案し、自らその方法を実践し、その過程、効果を検証する。

到達目標

生活習慣病の予防に関して広範な知識を身につけ他者に説明できる。

評価方法

レポートが課題に沿っているか、独創性がみられるか、関連知識の正確さを総合的に評価する。レポート（50％）、口頭試問（50％）を基準とする。

注意事項

自ら資料を探し出す能力も高めてもらいたい。

授業計画

下記に関する課題を与えるので、最新情報を自ら検索、入手し読解、吟味しレポート（2000～4000文字）を作成する。課題は最新のトピックスに応じて変遷するので固定されたものではない。レポート作成後に口頭試問を行い内容の理解の程度、周辺知識の正確さを問う。

- 1．生活習慣病の成因
- 2．生活習慣病の発症機序
- 3．生活習慣病予防法の現状と問題点
- 4．生活習慣病の新たな理論的予防法の考案

授業外学習

学習時間の目安：合計30時間

自ら生活習慣病予防に関する新知見や研究動向を国際英文ジャーナルから選択しレポート作成するための準備が重要となる。

教科書

使用しない。

参考書

参考文献は適宜案内する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 矢田貝智恵子

授業の概要

健康管理に関わる基本的な機器の操作、測定方法、データ解析方法を習得し、定期的に計測することで、自己の健康管理、身体づくりを行う。

健康増進・スポーツ時などにおける健康管理の方法などを調査・分析し、その結果に基づいて実験・研究計画の立案、実施、評価、判定を行う能力を養う。

健康分野の高度な専門知識と技能を身につけ、健康生活に関する様々な問題点を、学術的な立場に立って解決できる人材の育成を目指す。

到達目標

- 1 体成分分析や骨密度測定などの操作ができ、結果説明ができる。
- 2 日常生活の中で自己の健康状態を把握するにはどのようにするかを理解し、説明できる。
- 3 健康増進・スポーツ時などにおける健康管理の方法を学び、説明できる。
- 4 健康管理について、調査・分析し、その結果に基づいて実験・研究計画の立案、実施、評価、判定を行うことができる。

評価方法

機器操作20%（到達目標1）、レポート・報告書80%（到達目標2～4）に基づいて総合的に評価する。

注意事項

- ・講義「食生活と健康の研究」を履修のこと。
- ・レポートの作成などについて、不明な点、疑問などがあれば、早い段階で質問し、問題を解決すること。

授業計画

- 第1週 オリエンテーション
- 第2週～第5週 研究（調査・実験）テーマの選択、研究テーマに基づく文献講読
- 第6週～第14週 研究テーマに基づく文献講読およびレポート作成、調査・実験計画の立案
- 第15週 スクーリング（各種機器の操作・測定方法、データ解析方法）
- 第16週～第17週 報告書提出、研究テーマ決定、研究計画立案
- 第18週～第20週 研究テーマの決定・研究計画の提出
- 第21週～第25週 研究およびデータの整理・考察、文献講読
- 第26週～第29週 報告書作成
- 第30週 スクーリング

【レポート】

各期において、進捗状況報告を兼ねてレポートを作成・提出する。

- 前期：テーマに基づく調査・実験の骨子作成
- 後期：調査・実験の進捗状況報告

【スクーリング時における指導内容】

- ・選択したテーマについて、新たな知見などを含めた補完的な講義を行う。
- ・提出されたレポートの内容に関する質疑応答を通して、理解を深める。

【報告書】

各期において、スクーリング後に報告書を作成・提出する。

- 前期：提出されたレポートをまとめる
- 後期：前期報告書および研究テーマに基づく調査・実験データをまとめる

授業外学習

- ・定期的に体成分分析を行い、毎日の生活の中で、健康の維持増進のための事項を実践する。
- ・関連する情報を得るため、学内外の図書館などを利用し、文献収集を行うなど、レポート作成に取り組む。

教科書

適宜紹介する。

参考書

適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	4． 0 単位
担当教員	 川添敏弘

授業の概要

動物というフィルターを通して、福祉、医療、心理、生活など様々な分野を見つめると様々な学術的な視点を得ることができる。それが人間動物関係学である。授業では、「動物行動学」「障害者福祉」「高齢者福祉」「動物福祉」をキーワードにして様々な分野から学習する。

到達目標

人間動物関係学に関するテーマを実践的視点でみることができるようになる。

1. 動物が存在する環境について理解する。
2. 福祉環境への心理的支援を理解できる。
3. 人間動物関係学の重要性を理解する。
4. ボランティアや地域連携について理解する。

評価方法

レポートの提出状況と内容（70%）とスクリーング時における質疑応答の内容（30%）で、上記到達目標 1 ～ 4 が理解できているかで評価する。

注意事項

レポートにおいては、課題で示された内容に答えるだけでなく、最新のニュースとの関連を含め自らの考え・見解・感想を含めること。
図書や資料のみでは入手しにくいものがあるので、随時、メールなどで相談すること。
質問事項があれば、メール等で問い合わせること。

授業計画

指定したHPの閲覧後にメールによる質問を受け付ける。提示した資料などを介してレポートを作成し提出すること。

【レポート課題 1】

保健所や動物愛護センターにおける「殺処分ゼロ」を目指す運動の背景にどのような出来事があり、現在はどのような状況になっているか、また、ドイツやイギリス、アメリカなどの殺処分の状況はどのような状況になっているか4000字以上にまとめなさい。

〈参考資料〉

日本ペットフード協会HP

動物愛護管理法

環境省HP

関連するWebサイト

【レポート課題 2】

主に高齢者施設で実施されている動物介在介入だが、そのほとんどはレクリエーションとして行われている。一方で、R.E.A.D.プログラムやブリズンドッグ活動、療育犬活動などは目標を設定し、対象者の行動や精神状態の改善に取り組んでいる。このような目標を設定し犬を介在させる活動を選び紹介し、その効果について4000字以上にまとめなさい。

〈参考資料〉

知りたい！やってみたい！アニマルセラピー2016（駿河台出版社）

重度知的障害を伴う発達障害者の「問題行動」改善を目的とした動物介在介入の試み

日本動物病院協会HP

Intermountain Therapy Animals HP

Prison Dog Program 関連HP

関連するWebサイト

授業外学習

実際にボランティアや地域イベントに参加し、学びの内容を深める。
メディアからの情報を切り抜きノートにまとめたりレポートにしたりする。

教科書

特に指定しない

参考書

上記以外の参考書、参考文献については相談に応じる

備考

人間動物関係学演習（HCH52）

通年

Seminar in Life and Environmental Sciences

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 川添敏弘

授業の概要

人間動物関係学のテーマに深く取り組んでいくことを目標とする。この演習では、「ドッグトレーニング」と「動物介在介入」について学びながら科学的視点を持った知識を身に付けていく。理論背景を学び、スクーリングでは実際に体験することで学びとする。

到達目標

人間動物関係学に関するテーマを理論的・研究的視点でみることができるようになる。

1. 動物が存在する環境について学習理論をふまえて理解する。
2. 福祉環境への支援を学習理論をふまえて理解できる。
3. 人間動物関係学の重要性を理解する。
4. ボランティアや地域連携について理解する。

評価方法

評価は、課題レポート（70%）およびスクーリング時における質疑応答（30%）で、上記到達目標 1 ～ 4 が理解できているかで評価する。

注意事項

進捗状況の報告を長期にわたって怠らないこと。

主観的なデータではなく、客観的な根拠に基づくデータを引用すること。

授業計画

【レポート課題 1】

学習理論における「三項随伴性」を説明し、犬のトレーニングにおける「強化」と「罰（弱化）」の役割について2000字以上で説明しなさい。

（参考図書）

知りたい！やってみたい！アニマルセラピー2016（駿河台出版社）

メイザーの学習と行動・第3版（2008）二瓶社

関連するWebサイト

【レポート課題2】

初めて実施する高齢者施設における動物介在介入の方法と準備、配慮しなければならない点を2000字以上で説明しなさい。

知りたい！やってみたい！アニマルセラピー2016（駿河台出版社）

アニマルセラピーとは何か（1996）NHKブックス

動物病院協会HP CAPP活動

関連するWebサイト

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。その結果、犬のトレーニングにおける視点や学習理論が活動に生きていくことを学ぶ。また、動物を通して人が結びついていくことや社会活動の意義について学ぶ。

授業外学習

実際にボランティアや地域イベントに参加し、学びの内容を深める。

できるだけ多くの本や論文を読み、研究の理論的背景、研究法、今後の課題を理解する。

教科書

特に指定しない

参考書

上記以外の参考書、参考文献については相談に応じる。

備考

環境リスク演習（HCH46）

通年

Seminar in Environmental Risk

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 妹尾護

授業の概要

水道水、河川水、地下水の水質調査、河川の底質、瀬戸内海の底質、道路脇粉塵等の土壌調査を通して、サンプリング方法や試料の機器分析方法を習得する。また、得られたデータについて、解析・考察・まとめを行い、最終的にレポートを作成する。

到達目標

水質汚染や土壌汚染に関する調査方法、また機器による分析方法を身につける。

評価方法

スクリーニング等で演習に取り組む態度・姿勢 3 0 %、レポート 7 0 %により成績評価を行う（到達目標を評価）。

注意事項

レポートの進展に応じて中間報告を行う。

授業計画

水道水、河川水、地下水等の水質についての分野、工業生産活動による重金属元素等の土壌汚染に関する分野の中から関心のあるテーマを選び、自ら選定したフィールドで調査と分析試料のサンプリングを行う。そして、スクーリング時に各種分析装置を用いて実際に分析を行う。その後、得られたデータをパソコン等で表や図に文献等を参考にしながら検討・考察を行って、最終的にレポートとしてまとめる。

授業外学習

演習を進める上で必要な試料採取の方法、試料の調整、分析方法等については、参考資料等紹介する。
その他、必要に応じて、実験方法、データ処理に関する学習についてメールで指示する。

教科書

参考資料を使用する。（教科書は使用しない）

参考書

演習の進展状況に応じて、適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	4. 0 単位
担当教員	 大川元久

授業の概要

本講座は医学教育や研究に携わる者としての基本的な考え方や方法論をもとに研究を実践されるものである。その特徴は救急・災害医療を病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学的視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していくものである。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究において研究を含む『教える技術』について理解と実践にその習得に重きを置く。すなわち『教えることを学ぶ』ことである。ついで、医療教育システムのインストラクショナルデザインについて学び応用出来るようにする。講義はeラーニングなどを活用し、各個人が持つ能力を最大限に引き出し社会に貢献できる人材を養成する。講義の前提は多くの人の尊い命のことを考えた生命倫理に基づくことであることをしっかり認識しておいて下さい。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行い、学術的プレゼンテーションができる。

評価方法

研究発表成果もしくは論文(60%)、レポート(20%)、口頭試問(20%)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きをおいて評価する。

授業計画

救急・災害医療を教育学に共通する要素を研究対象とする医療教育学の視点から、救急・災害医療について研究する。配布資料は各回に送付する。

4月のオリエンテーションを行ったのちに教科書：上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザインからアウトラインとして学習項目をレポート課題として提出する（Google driveの使用法など詳細は随時説明する）。特に、その研究テーマを選定した動機・研究対象の背景・現在の課題を明確にする。この段階が総論的な学習で7回目の講義までの計画となる。続いて学習者の到達目標と現状とのギャップを埋めるために必要な項目・技術について学習を実施していく。特に8回目以降は各論的に自らのプレゼンテーションを活用して学んでいく。これらの後に科目修了試験（関連学会等での発表に代用可）をもって単位認定する。

授業外学習

救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JNTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。

全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

インストラクショナルデザインとテクノロジー：教える技術の動向と課題・鈴木克明 監修翻訳・北大路書房・978-4-7628-2818-8

参考書

上手な教え方の教科書～入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

インストラクショナルデザイン―教師のためのルールブック 島宗 理 著/米田出版 (2004/11)

その他を授業中に紹介する。

備考

救急・災害医療演習（HCH44）

通年

Seminar in Disaster and Emergency Medicine

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 大川元久

授業の概要

救急・災害医療において、病院前救急医療分野という立場でその医学的教育や救急・災害医療体制を医療危機管理学の視点で科学的根拠に基づいて実践していくための研究をテーマとして教育・指導していく。対象は医師、看護師、救急救命士等の救急医療に携わる者とする。個別指導研究(20項目)において研究の仮説の立て方から研究デザインを考案し、具体的な論文作成方法の基本を学ぶ。また研究の基礎となる統計分析法の理解と実践にその習得に重きを置く。特にインストラクショナルデザインを基とした医療教授法を身に着ける。特に、その研究テーマを選定した動機・研究対象の背景・現在の課題を明確にします。このレポートから学習者の到達目標と現状とのギャップを埋めるために必要な項目・技術についてスクーリングを実施していきます。

到達目標

救急・災害医学をチーム医療を行うスタッフの一員として研究活動を行い、学術的プレゼンテーションの技術を学び、科学的な学問としての教え方を身に着ける。

評価方法

研究発表成果(60%)、レポート(20%)、口頭試問(20%)

注意事項

研究発表は当該学会発表もしくは論文完成に重きを置いて評価する。随時、SkypeやFaceTimeおよびLINEを用いて通信指導としてe-ラーニングとして実施します。

これらの後に科目修了試験（関連学会等での発表に代用可）をもって単位認定します。

授業計画

4月のオリエンテーションで救急・災害医療の学習資料について説明する。基本的な習得すべき知識の確認を総論的内容として確認していく（10回目まで）。レポート提出については規定に則り随時説明する。9月には外傷診療の基本知識であるJATECを習得したものととして災害医療に導入できることを確認する。この段階で習得した知識を総括できるようになる。とくに、医療教授法 インストラクショナルシステムデザイン(ISD)を理解できるように自選する。後半の学習内容は、プレゼンテーションを実践するための知識として学んだことを國人していく。同時に統計学的手法を自身の研究に取り込むことを確認していく。ここで後期半ばでレポート提出を行う。最終的には関連学会で発表できる形にまとめることで、実際の発表と修了とする。

授業外学習

救急医療系の標準教育プログラムであるBLS、ACLS(ICLS)、PSLS/ISLS、JPTEC/JATEC等に積極的に参加する。また、各種災害訓練やメディカル・ラリーに参加する。

全国レベルの学会・研究会に積極的に参加してもらう（参加費自己負担）。

教科書

上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン 向後千春 技術評論社 ISBN: 978-4774174617

参考書

インストラクショナルデザインとテクノロジー: 教える技術の動向と課題 鈴木 克明 (監修, 翻訳) 北大路書房(2013/9/28)ISBN:978-4762828188

あなたのプレゼン誰も聞いてませんよーシンプルに伝える魔法のテクニック 渡部欣慰著 南江堂 (2014/4/1)ISBN:978-4-524-26127-7

その他、授業中に紹介する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	4．0 単位
担当教員	 武光浩史

授業の概要

生命活動の基本は遺伝子発現とタンパクへの翻訳で行われている。この講義では小動物の様々な疾病の診断と治療を分子生物学的なアプローチで解析、研究を行うのに必要な知識を習得する。

到達目標

分子生物学の基礎と遺伝子とタンパクに関する実験手法の概要を理解する。

評価方法

授業計画に示したレポートの提出を求め、評価はプレゼンテーション 8 0 %、質疑応答 2 0 %の重みで判定する。

注意事項

原則として課題提出の期限は厳守とする

授業計画

レポート課題1

遺伝子に関する研究の実験を説明し、PCR法、遺伝子組み換え、遺伝子シーケンス法、次世代シーケンサーの原理と応用について4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

- ・ Victor W. Rodwell 「イラストेटドハーバー生化学」丸善出版 ISBN: 4621300970
- ・ 田村隆明 「基礎から学ぶ遺伝子工学」 羊土社 ISBN: 4758120838

レポート課題2

タンパク質の発現解析に関する実験の概要を説明し、ウェスタンブロット法、ELISA法、フローサイトメトリー法の原理と応用について4000字以上にまとめなさい。

<参考資料>

- ・ Victor W. Rodwell 「イラストेटドハーバー生化学」丸善出版 ISBN: 4621300970
- ・ 田村隆明 「基礎から学ぶ遺伝子工学」 羊土社 ISBN: 4758120838

授業外学習

公開されている論文を読み、用いられている実験手法を中心に各自でまとめる。

教科書

特になし

参考書

上記以外の参考書、参考文献については、それぞれ関心のある分野に応じて、相談の上、適宜紹介する。

備考

年次	1 年
対象	22 ～ 22 CH
単位数	2．0 単位
担当教員	 武光浩史

授業の概要

人医療の研究と同様に、動物医療に関する研究においても分子生物学的な手法を用いた実験が不可欠である。この講義では遺伝子やタンパクを解析する方法を中心にした実験計画の立案、実験法、データ解析を実施するための知識を修得し、レポートにまとめる。

到達目標

- ・研究計画を立案できる
- ・研究法を理解できる
- ・データを論文形式にまとめることができる

評価方法

課題レポートおよびスクーリング時における質疑応答により評価す。評価はレポート80%、質疑応答20%の重みで評価する。

注意事項

提出物の期限は厳守

授業計画

【レポート課題】

課題 1

BMC Veterinary Research から犬の再生医療に関する1年以内の論文を選び、要約して自らの知見と合わせてレポート(2000字以上)を作成する。

課題 2

BMC Veterinary Research から犬の糖尿病に関する1年以内の論文を選び、要約して自らの知見と合わせてレポート(2000字以上)を作成する。

【スクーリング時における指導内容】

各受講者からの要約レポート・質問をつき合わせて討議することによって、多様な視点から内容に関する理解を深める。その結果、動物医療における日進月歩の技術や知識を理解し、分子生物学的な深い知見を得ることができる。

授業外学習

与えられたテーマに沿った論文を読む。スクリーニングと合わせて90時間を目安に学習を行う。

教科書

原則としてプリントを配布する。必要に応じて授業内で指示する。

参考書

適宜紹介する

備考

特別研究（HCH25）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	21 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 赤木恒雄

授業の概要

「生涯学習論研究」「生涯学習論演習」等を通して習得した生涯学習、成人教育等の理論に基づき、生涯学習、成人教育、社会教育領域の中から、研究テーマとしてふさわしいテーマを絞り込む。そしてその研究テーマに基づき、研究内容についての質疑等を通して深化発展させ、最終的には修士論文としてまとめることを目的としている。全体的には、メール等を中心として必要な指示を行う。そして、年3回実施されるスクーリングでは、1 年次に修士論文作成に必要な基礎的知識の指導、及び修士論文のテーマの絞り込みを行う。2 年次では、絞り込まれたテーマに基づき、論文の構成、各章・節の内容などについてメール等で、指導する。メール等では理解しにくい点については他の手段を駆使して、より細かい指導を行う。

到達目標

- 1．各自のテーマに応じた修士論文を完成する。
- 2．物事を論理的に考え、構成し、組み立てる反省的能力を修得する。

評価方法

修士論文作成における質疑応答25%（到達目標2を評価）、修士論文の中間発表15%（到達目標1, 2を評価）、修士論文60%（到達目標1, 2を評価）により成績を評価し、総合点60点以上で合格とする。

注意事項

1. 修士論文の作成に向けて、定期的に進捗状況を報告する。
2. 2 年次 8 月に修士論文中間発表会を実施する。
3. 修士論文作成上、必要なことについてはメール等で質疑応答を行う。

授業計画

1 年次スクーリング（3 回）

1. 修士論文作成に必要な基礎的知識について指導
2. 研究文献の収集及び論文構成等の指導
3. 提示された資料を基に、研究テーマの絞り込み

スクーリングまでの間はメール等による個別指導

2 年次スクーリング（3 回）

1. 修士論文のテーマの決定、個別指導
2. 修士論文の中間発表、個別指導
3. 修士論文の完成に向けて個別指導

スクーリングまでの間はメール等による個別指導

授業外学習

- ・自分のテーマに関する専門書、資料、データの収集を行う。
- ・自分のテーマに関わる専門書、資料を時間を掛けて読み込み・分析すること。

教科書

使用しない。

参考書

適宜修士論文作成に必要な資料を提示する。

備考

特別研究（HCH26）

通年

Special Research

大学院通信制 人間文化専攻

年次	1 年
対象	21 ～ 19 CH
単位数	6．0 単位
担当教員	 小山悦司

授業の概要

社会の発展に果たす教育及び教師の役割について考察するとともに、教育人材開発のための理論と方法を探究することを目的としている。具体的には、まず教師や教育指導者に求められる力量の内実を、技術的側面と人格的側面から明らかにする。そして力量形成の方法や、次代の国際社会を担う人材開発（staff development）のあり方について、専門職的発達論（professional development）、成人学習理論、キャリア開発プログラム、養成・研修カリキュラムの視点から、理論面にウエイトを置いて研究する。特別研究全体を通じて、修士論文の作成に向けて継続的な指導を行い完成させることを目的としている。

到達目標

- 1 教育人材開発の分野に関する高度な専門知識・技能を身に付ける。
- 2 研究成果や自分の考えを、口頭や論文で分かり易く論理的に発表し討議することができる。
- 3 学際的な視点に立って、問題点を整理し、問題解決へのアプローチができる。
- 4 人間文化研究科の学位論文等審査基準に適合した修士論文を作成できる。

評価方法

修士論文の論点が題意に沿っているかどうか、結論に筆者の独創性が見られるか、研究内容などの観点から総合的に評価する。評価の比率は、修士論文の内容（60%）、スクーリング（20%）、構想発表・中間発表等（20%）を基準とする。

注意事項

修士論文は、学術論文作成上の基本的なルールを守り、本学の定める修士課程学位論文審査基準に基づいて作成すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション 研究計画に関する個別面談
 - 2.研究計画の検討
 - 3.研究計画の確定
 - 4～15.修士論文作成法
 - 16～25.教育人材開発の諸理論
 - 26～35.教師に求められる力量
 - 36～39.修士論文中間報告会準備（1年次8月スクーリング）
 - 40.修士論文中間報告会
 - 41～45.教師の自己教育力
 - 46～50.教師のライフコース研究
 - 51～54.修士論文中間報告会準備
 - 54～57.修士論文中間報告会（1年次1月スクーリング）
 - 57～65.教職生涯にわたる力量形成
 - 65～70.修士論文中間報告会準備（8月スクーリング）
 - 70～72.専門職的発達論（職能成長論）
 - 73～83.修士論文執筆指導（12月スクーリング）
 - 84～89.修士論文審査会準備（1～2月スクーリング）
 - 90.修士論文最終提出指導
- 【スクーリングにおける指導内容】

本科目に関連した最新の研究動向を理論面を中心に紹介するとともに、修士論文の作成に向けて、研究のさらなる深化・充実をめざす。

授業外学習

指示する参考文献や資料に基づいて、修士論文の作成に向けて授業外学習を行う。

教科書

堀公俊・加留部貴行著『教育研修ファシリテーター -組織・人材開発を促進する-』日本経済新聞社 2010年 ISBN-978-4-532-49057-7
曾余田浩史・岡東壽隆編『新・ティーチング・プロフェッション 次世代の学校教育をつくる教師を目指す人のために』明治図書 ISBN978-4-18-050377-3

参考書

オリエンテーションやスクーリングの際に適宜紹介する。

備考